

笏賀3号橋橋梁補修工事概要

- 1 事業名 道路メンテナンス事業
- 2 事業地区 東伯郡三朝町大字笏賀
- 3 事業内容 笏賀3号橋 橋長 L=8.03m 幅員 W=3.60m
- | | |
|------------------|----------------------|
| 断面修復工（左官工法） | N=1 構造物 |
| （充てん工法） | V=0.02m ³ |
| 湿式塗膜剥離工 | A=38m ² |
| 塗替え塗装工（錆転換型防食塗装） | A=38m ² |
| 目地補修工 | L=7.6m |
| 舗装打ち換え工 | A=8m ² |
| 構造物撤去工 | N=1 式 |
| 仮設工 | N=1 式 |
- 4 工期 令和8年2月13日



現場説明書

工 程	<p>① (他工事等との調整) _____については、_____と関連するので相互の連絡調整を密にすること。</p> <p>② (部分完成、着工保留) _____については、_____まで_____ [すること、しないこと]。</p> <p>③ (施工時間) 本工事の施工時間帯は、昼間施工（8：00～17：00）を見込んでいる。 _____の施工時間は、_____とす。</p> <p>④ (余裕期間設定工事) _____ 本工事は、鳥取県余裕期間設定工事に係る実施要領（平成28年6月9日付第201600036328号県土整備部長通知）の対象工事であり、工事開始日、前払金の請求、技術者の配置及びその他の取扱いについては、同要領の規定による。 工期については、調達公告のとおりとする。</p> <p>⑤ (鋼材の調達の遅れによる工期の延長) _____ この工事の工期には、鋼材調達期間として、_____ヶ月を見込んでいるが、受注者の責に帰することができない事由により鋼材の調達が遅れ、工期内に工事を完成することができない場合は、その理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。</p> <p>⑥ (週休2日工事) 【治山工事、林道工事、港湾工事、漁港工事以外】 本工事は、鳥取県県土整備部週休2日工事実施要領（平成30年3月12日付第201700297117号県土整備部長通知）の対象工事である。 https://www.pref.tottori.lg.jp/277262.htm に掲載された本工事調達公告日時点で最新の同要領の規定に従い週休2日工事を実施すること。</p>
用地 関係	<p>① (用地、物件等未処理) _____ 本工事区間の_____には_____があるので、監督員と打合せのうえ施工を行うこと。 なお、_____頃_____の予定である。</p>
支障 物件	<p>① (埋設物等の事前調査) 工事に係る地下埋設物等の事前調査については、[未調査・(水道・下水道・電気・通信・ガス・その他_____)] について調査済み]である。 事前調査済みのうち本工事区域内で埋設が確認されている地下埋設物等は、(水道・下水道・電気・通信・ガス・その他_____) であるため、各管理者の立会を求めて埋設位置等の確認を行うこと。 その他埋設が想定される未調査の埋設物については事前に確認を行うとともに、管理者不明の埋設物等が確認された場合は、監督員に報告すること。</p> <p>② (支障物件) _____ _____の施工に当って、_____が支障となっているが、_____までに移設が完了する見込である。 予定どおり処理できなかった場合は別途協議する。</p> <p>③ (立木の置き場所) _____ 工事用地内の立木は伐採し、_____に置くこと。</p>
公害 対策	<p>① (低騒音型・低振動型建設機械) _____ 本工事のうち施工箇所：_____については、特に生活環境を保全する必要があるため、下記工種の施工に当たっては、低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定（国土交通省告示、平成13年4月9日改正）に基づき指定された建設機械を使用するものとする。 該当工種：_____、施工機械：_____</p>

① (交通安全施設等)

一般交通等に支障を及ぼさないよう十分注意して施工すること。なお、交通整理の配置人員及び必要日数として、以下のとおり見込んでいるが、警察等との協議により変更が生じた場合は別途協議すること。

交通誘導員A 人 交替要員 人 1日あたり合計 人 配置日数 日
 人・日
 工事全体合計 人・日

交通誘導員B 2 人 交替要員 人 1日あたり合計 2 人 配置日数 2 日
 人・日
 工事全体合計 4 人・日

警備業法に規定する警備員を配置する場合においては、交通誘導員A、交通誘導員Bの定義は以下のとおりとする。

交通誘導員Aとは、警備業法第2条第4項に規定する警備員であり、警備員等の検定等に関する規則第1条第4号に規定する交通誘導警備業務に従事する者で、交通誘導警備業務に係る1級検定合格警備員又は2級検定合格警備員をいう。

また、交通誘導員Bとは、警備業法第2条第3項に規定する警備業者の警備員で交通誘導員A以外の交通の誘導に従事する者をいう。

なお、自社の従業員で交通整理を行う場合は、警備業法第14条で規定する以外の者とし、安全教育、安全訓練等を十分行うこと。この場合は交通誘導員Bを配置していることとみなす。

安全対策

① (濁水処理)

工事で発生する濁水に対しては、濁水処理を行うものとし、その工法については、設計図書によるものとする。なお、これにより難い場合は別途協議すること。

また、舗装の切断作業時に発生する排水の処理についても、舗装の切断作業時に発生する排水の処理について(平成24年3月27日付第201100201443号水・大気環境課長通知)(<https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1141896/120327hosousetudan.pdf>)に基づいて適正に処理すること。

濁水処理

【建設発生土(処理)】

① (他工事等流用) ~~建設発生土は 市・町・村 地内の に運搬(片道運搬距離 km)するものとする。~~

② (建設技術センター) ~~建設発生土は 市・町・村 地内のセンター事業所に運搬(片道運搬距離 km)するものとする。なお、処理費として1m³当たり 円をセンターに支払うこと。センター事業所へ搬出する土砂の土質は、各事業所が指定している土質性状同等以上とすること。(土質性状(記載例) 砂質土、コン指数300kN/m²以上)~~

② (民間残土受入地) ~~建設発生土は 市・町・村 地内の に運搬(片道運搬距離 km)するものとする。なお、処理費として1m³当たり 円を に支払うこと。民間残土受入地へ搬出する土砂の土質は、各受入地が指定している土質性状同等以上とすること。(土質性状(記載例) 砂質土、コン指数300kN/m²以上)~~

④ (土質改良プラント) ~~建設発生土は 市・町・村 地内の に運搬(片道運搬距離 km)するものとする。なお、処理費として1m³当たり 円を に支払うこと。土質改良プラントへ搬出する土砂の土質は、各プラントが指定している土質性状同等以上とすること。(土質性状(記載例) 砂質土、コン指数300kN/m²以上)建設発生土は現地処分とする。~~

【コンクリート塊・アスファルト塊・建設発生木材(処理)】

① (分別解体等) ~~コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材は、現場内において分別解体するものとする。なお、その費用を下記のとおり見込んでいる。
 コンクリート塊 1m³当たり 円
 アスファルト塊 1m³当たり 円
 建設発生木材 1m³当たり 円~~

② (他工事等流用) ~~[Co雑割材・]は、 市・町・村 地内 工事で使用するものとする。~~

建設副産物の処理

③ (バイオマス発電燃料加工施設への搬出)

建設発生木材は_____市・町・村_____地内の_____のバイオマス発電燃料加工施設への搬出(片道運搬距離_____km)を想定し、1t当り_____円を見込んでいる。搬出先を変更する場合には、理由を付して協議を行うこと。

なお、公共工事で伐採する支障木は、一般木質バイオマスとして区分される。一般木質バイオマスであることは、立木の所有者(鳥取県)自らにより由来を証明することを基本とするが、伐採・運搬を行う者が由来を証明する場合は、鳥取県森林組合連合会が登録・審査した認定団体でなければならない。当該工事は、[所有者(鳥取県)・伐採・運搬を行う者]により由来の証明を行うこととしているため、着手にあたっては事前に監督員に確認すること。

④ (木材市場等へ売却)

建設発生木材は_____市・町・村_____地内の_____への搬出(片道運搬距離_____km)を想定し_____円を見込んでいる。これは、他の木材市場等への売却を妨げるものではないが、売却先を変更する場合の理由を付して協議すること。

⑤ (再資源化施設へ搬出)

コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材等は、再生資源として、下記の再資源化施設等への搬出を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが搬出先を変更する場合は理由を付して協議を行うこと。再資源化施設業者等と書面による委託契約を行うとともに、運搬車両ごとに manifests を発行するものとする。

なお、再資源化施設へ搬出が完了したときは、書面により報告すること。

(施設の名称・受入れ費用) コンクリート塊 _____市・町・村_____地内の_____ (運搬距離_____km)、費用 1t 当り _____円
 アスファルト塊 _____市・町・村_____地内の_____ (運搬距離_____km)、費用 1t 当り _____円
 建設発生木材 _____市・町・村_____地内の_____ (運搬距離_____km)、費用 1t 当り _____円
 その他 () _____市・町・村_____地内の_____ (運搬距離_____km)、費用 1t 当り _____円

(受入れ時間帯) 8時～17時(平日)
 (受入れ条件) ア 路盤材、土砂、金属片等が混入していないこと。
 イ コンクリート塊、アスファルト塊の径は500mm以下であること。
 ウ 建設発生木材に関しては、泥等の付着がなく、径_____cm以下、長さ_____m以下であること。
 エ 2次公害発生の恐れのある物質(廃油等)を含まないこと。

⑥ (最終処理等)

_____については、_____市・町・村_____地内の産業廃棄物処理場への搬出(片道運搬距離_____km)を想定し、その費用として1t当り_____円を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが、搬出先を変更する場合は協議を行うこと。

⑦ (産業廃棄物の処理に係る税)

産業廃棄物の処理に係る税に相当する額を、_____円見込んでいる。

⑧ (伐木工の数量)

伐木工は伐木工歩掛(平成27年8月12日付第201500076595号鳥取県県土整備部技術企画課長通知)に基づき参考数量で算出しているの、実績について見積もり等により監督員に協議を行うこと。

⑨ (建設発生木材の出来形数量)

建設発生木材の運搬量、搬出量は出来形数量に応じて設計変更を行う。そのため、次のとおり数量管理を行うこと。

工種	項目	規格	摘要
建設発生木材運搬量	現場において運搬車の計測を行うこと。 平均的な1断面を計測。計測に当たっては、頂部に最低2箇所の折れ点を設けること。 断面積に荷台の延長を乗じて体積を算定する。	運搬車全数の測定を行うこと。また、10台に1台の割合で写真管理を行うこと。ただし、搬出台数が10台に満たない場合は、2台以上写真管理を行うこと。 なお、manifests で運搬量(体積(空m3))が確認出来る場合は、計測、写真管理は不要とする。	折れ点を2点以上設ける 平均的な断面 
建設発生木材搬出量	manifests 又は伝票管理を行うこと。	運搬車全数の管理を行うこと。	伝票は処分業者が発行したものでなければならない。

⑩ (manifests)

産業廃棄物の運搬又は処分を他人に委託するときは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき manifests を作成すること。ただし、一般廃棄物や有価物は不要である。

建設副産物の処理

建設副産物の使用	<p>① (建設発生土の使用) _____ 工事から〔本工事運搬・相手方運搬〕の建設発生土を受入れ、使用箇所：_____に使用する。</p> <p>② (再生資材の使用) ア Co雑割材は、_____ 工事から運搬し、使用箇所：_____に使用する。 イ アスファルト・コンクリート切削殻等は、_____ 工事から運搬し、使用箇所：_____に使用する。 ウ 再生クラッシュラン〔規格：Re=_____〕は、使用箇所：_____に使用する。 エ 再生コンクリート砂〔規格：RS=_____〕は、使用箇所：_____に使用する。 オ 再生加熱アスファルト混合物〔規格：_____〕は、使用箇所：_____に使用する。 カ その他再生資材〔資材名：_____〕〔規格：_____〕は、使用箇所：_____に使用する。 キ 本工事において、再生クラッシュランの使用は上記ウに記載のものを想定している。当該碎石について、受注者が再生資源化施設側と供給状況等について協議し、再資源化施設側から書面により供給の確保ができない旨の回答があった場合には、他の再生碎石を使用することとし、設計変更の対象とする。その上で他の再生碎石の確保も難しいと判断された場合には、新材を使用することとし、設計変更の対象とする。 ク 本工事において、粒度調整碎石の使用は新材を想定している。ただし、受注者が再生材の使用を希望する場合には、受注者において供給状況を確認し、再生材の使用について協議することとし、設計変更の対象とする。</p>
工事用道路	<p>① (農地の一時転用について) 本工事を施工するために必要な仮設道路等を農地に設置する目的で、受注者が農地を借地する場合は、事前に所轄農業委員会と協議を行い、農地法第5条第1項に基づく農地一時転用の許可を得ること。</p> <p>【令和5年4月1日時点で、前工事等の請負業者が一時転用している農地を継続して利用する場合は、以下も記載する。(該当がなければ記載を削除)】</p> <p>受注者は、前工事等の請負業者が農地一時転用している農地を継続して利用する場合、速やかに変更報告書を作成の上、所轄農業委員会へ提出し、工事完了後はその旨を連絡すること。</p> <p>② (農地の賃貸借) ア _____の用途に使用するため、_____市・町・村 _____番地を賃貸借すること。 イ 土地賃貸借契約書に「鳥取県との建設工事請負契約に基づき、土地の貸借権は鳥取県が有することとし、原状復旧の責は鳥取県が負い、受注者がその任に当たるものとする。」を明記すること。 ウ 賃貸人に賃貸借料を支払うこと。 エ 工事完了後、速やかに農地の原状に復旧すること。 オ イにより契約した地番における、農地一時転用許可は不要である。</p>
その他	<p>① (自社施工) 本工事においては、(※) _____ 工 (_____ 工を除く)のうち少なくとも _____ 千円までの部分は、鳥取県県土整備部自社施工対象工事適正実施要領に定めるところにより自社施工しなければならない。 ※該当する細別(レベル4)を記載する。</p> <p>② (工事名称) 工事標示板に記載する名称は、 _____ 笏賀3号橋橋梁補修工事 _____ とする。 なお、工事標示板には、原則として県産木材を使用すること。また、その他の保安施設等についても積極的に県産木材を使用すること。</p>

③ (景観評価)

ア 本工事は、鳥取県公共事業景観形成指針に基づく、景観評価対象事業〔であるではない〕。
 イ ~~景観評価対象事業の場合、施工にあたっては設計図書によるほか、必要に応じて監督員と協議すること。~~

④ (工事成績評定)

本工事は、工事成績評定要領（以下「評定要領」という。）に基づく工事成績評定の対象と〔するしない〕。工事成績評定の対象外とするのは以下の〔ア・イ・ウ・エ・オ〕に該当するため。
 ア ~~請負対象設計金額（請負契約の対象となる部分の設計金額をいい、請負契約締結後に請負対象設計金額を変更した場合には、当初請負対象設計金額とする。以下同じ。）が、500万円未満の一般土木工事及び250万円未満の建築・設備工事~~
 イ ~~鳥取県の管理する道路（道路法（昭和27年法律第180号）第2条第1項に規定する道路に限る。）・河川・湖沼・港湾を維持し、修繕し、又は管理（公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法（昭和26年法律第97号）第2条第2項に規定する災害復旧事業として行われるものを除く。）することを目的として発注された工事（年間維持、港湾浚渫、河川掘削、伐開、塵芥処理工事）~~
 ウ ~~災害等の初期活動で緊急かつ迅速な対応が不可欠である緊急応急工事~~
 エ ~~機器の納品、部品取替等の建設工事（融雪施設点検補修、道路照明灯点検補修、標識灯設置工事等）~~
 オ ~~工事目的物を伴わない建設工事（旧橋撤去、残土撤去・運搬工事等）~~

⑤ (監督体制)

本工事は監督体制は〔一般・重点〕監督とする。
 重点監督の工種は_____とし、その他の工種は一般監督とする。
 なお、鳥取県建設工事低入札価格調査制度対象工事となった場合は、別途通知する。

⑥ (三者協議)

本工事は、~~（対象工事の区分を記載）~~工事であり、工事着工までに、施工条件及び施工の留意点等を確認するため、発注者並びに当該工事の測量等業務受注者及び施工受注者の三者で協議するものとする。（重点監督工事等に適用）

⑦ (技能士常駐)

本工事には、下記のとおり鳥取県土木工事共通仕様書特記事項に基づく技能士常駐対象工種が含まれており、該当工種の作業期間は、技能士が工事現場に常駐しなければならない。
 ア 技能士種別：_____技能士、該当工種：_____工、特記事項根拠：_____頁
 イ 技能士種別：_____技能士、該当工種：_____工、特記事項根拠：_____頁
 ウ 技能士種別：_____技能士、該当工種：_____工、特記事項根拠：_____頁

⑧ (電子納品)

~~情報共有システムを利用する工事は、原則として工事完成図書を電子納品すること。ただし、止むを得ない事情がある場合は、監督員と協議の上、紙書類によることができる。~~
~~情報共有システムを利用しない工事であっても、受注者が電子納品を希望する場合は、監督員と協議の上、電子納品対象工事とする。~~
 電子納品に当たっては、<https://www.pref.tottori.lg.jp/171188.htm>に掲載された本工事調達公告日時点で最新の「鳥取県電子納品・情報共有運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に従い適正に納品すること。
 オンライン電子納品を実施する場合は、<https://www.pref.tottori.lg.jp/318010.htm>に掲載された本工事調達公告日時点で最新のオンライン電子納品試行要領（令和6年6月12日付第202400071599号技術企画課長通知）に従うこと。

⑨ (情報共有システム)

情報共有システム（以下「システム」という。）を利用すること。
 ただし、情報共有システムの利用を希望しない場合は、監督員と協議の上、紙書類によることができる。
 システム利用に当たっては、ガイドラインに従い適正に実施すること。

⑩ (寒中コンクリート)

本工事は、寒中コンクリートとして施工を行わなければならない期間があるので、適正に実施すること。なお、寒中コンクリートの養生費用については、「寒中コンクリートの養生費用について」（平成23年12月7日付第201100123529号県土整備部長通知）に基づいて処理することとし、設計変更の対象とする。

その他

⑪ (建設機械の賃料の採用単価)

~~ア 建設機械の賃料について、ラフテレーンクレーン及び高所作業車以外の建設機械は長期割引単価を標準としている。
通常単価を採用した建設機械〔無し・有り()〕
イ ラフテレーンクレーン及び高所作業車について、1ヶ月以上の長期利用に当たるものは長期割引単価を採用し、1ヶ月未満の利用に当たるものは通常単価を採用している。
本工事の 工で使用を想定しているラフテレーンクレーン(規格 t 吊)の採用単価は(長期割引単価・通常単価)(建設物価 月号、 頁)を採用し、本工事の 工で使用を想定している高所作業車(規格)の採用単価は(長期割引単価・通常単価)(建設物価 月号、 頁)を採用している。~~

⑫ (現場環境改善)

【災害復旧工事以外】

本工事は、現場環境改善(率計上分)実施対象工事と〔するしない〕。
下表の内容のうち原則として各費目(仮設備関係、営繕関係、安全関係及び地域連携)ごとに1実施内容ずつ(いずれか1項目のみ2実施内容)の合計5つの実施内容を実施すること。港湾及び漁港事業は、項目に防災・危機管理関係を含めることができる。
実施に当たっては、施工計画書に実施内容及び実施時期を記載し、実施後に監督員に写真等を提出すること。
地域の状況・工事内容により組み合わせ、費目数及び実施内容を変更する場合は、原則として設計変更は行わないが、その内容(目的に資するものであること)について監督員の確認を受けること。
1内容も実施困難な場合は、監督員と協議の上、設計変更により率計上は行わない。
また、主に現場の施設や設備に対する熱中症対策・防寒対策に関する費用については、率分の計上ではなく、契約変更時に対策の妥当性を確認の上、積み上げ計上を行う。施設・設備の種類や規模及び設置期間については、監督員と協議の上、決定する。

計上費目	実施内容
仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備、2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設、4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実、6. 環境負荷の低減
営繕関係	1. 現場事務所の快適化(女性用更衣室の設置を含む) 2. 労働者宿舍の快適化 3. デザインボックス(交通誘警備員待機室) 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等
安全関係	1. 工事標識・照明・安全具等安全施設のイメージアップ(電光式標識等) 2. 盗難防止対策(警報機等)
地域連携	1. 完成予想図、2. 工法説明図、3. 工事工程表 4. デザイン工事看板(各工事PR看板含む) 5. 見学会等の開催(イベント等の実施含む) 6. 見学所(インフォメーションセンター)の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費等(地域行事等の経費を含む) 9. 社会貢献
防災・危機管理関係 (港湾・漁港事業)	1. 防災訓練(地震・台風等の自然災害に対する訓練)

⑬ (熱中症対策)

熱中症対策について <https://www.pref.tottori.lg.jp/291941.htm> に掲載の熱中症予防対策資料を参考に熱中症予防対策を実施すること。
また、気象庁から高温注意報(最高気温35℃以上が予想される場合)が発表された日においては、作業の中断、作業時間の短縮を行うか、十分な水分、塩分の摂取のほか休憩場所の整備及び十分な休憩時間を確保するなどの熱中症予防対策を確実に実施したうえで作業を行うこと。

その他

~~⑭ (現場管理費補正)~~

~~【治山工事、林道工事以外】~~

~~本工事は、熱中症対策に資する現場管理費補正の試行要領(令和元年6月12日付第201900066875号県土整備部長通知)の対象工事である。~~

~~熱中症対策に資する現場管理費補正の適用を希望する場合は、<https://www.pref.tottori.lg.jp/285759.htm>に掲載された本工事調達公告日時点で最新の同要領の規定に従い、工事着手前に提出する施工計画書に、工事期間中における気温の計測方法及び計測結果の報告方法を記載すること。計測結果は施工計画書に基づき、計測結果の資料を工期末の14日前までに提出すること。~~

~~⑮ (日本芝生産地への配慮)~~

~~日本芝の生産に配慮した植生工について(令和2年2月27日付第201900299342号県土整備部長通知)(<https://www.pref.tottori.lg.jp/290178.htm>)に基づき、日本芝を生産するほ場と、その前後も含めたほ場に隣接する法面においては、植生工にバミューダグラスの使用を禁止する。~~

~~ア [張芝工・筋芝工]は、日本芝の〔野芝・高麗芝〕を使用すること。~~

~~イ [植生基材吹付工・客土吹付工・種子散布工・枠内吹付工]に使用する種子に「バミューダグラス」は使用しないこと。配合種子は監督員と協議のうえ決定すること。~~

~~ウ [わら芝工・植生シート工・植生マット工]に使用する種子に「バミューダグラス」は使用しないこと。バミューダグラスの代替えの種子として〇〇を使用し、材料費として1m²当たり〇〇円を見込んでいる。~~

~~⑯ (ICT活用工事[受注者希望型(LightICTを含む)])~~

~~本工事は、受注者希望型(LightICTを含む)の対象工事であるので、最新の「ICT活用工事特記仕様書(受注者希望型)」によること。~~

~~仕様書の改定状況は<https://www.pref.tottori.lg.jp/269460.htm>を参照すること。~~

~~⑰ (土石流の発生・到達するおそれのある現場での工事)~~

~~本工事は、労働安全衛生規則第2編第12章「土石流による危険の防止」に定める、土石流が発生する恐れのある現場において行う工事である。~~

~~安全対策について、<https://www.pref.tottori.lg.jp/295476.htm>に掲載の「土石流の発生・到達するおそれのある現場での工事における安全対策について」に基づいて実施すること。~~

~~⑱ (標示板の設置)~~

~~本工事は「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づく工事であり、標示板の工事種類について「国土強靱化対策工事(5か年加速化対策)」と標記すること。~~

~~標示板の記載及び記載内容については、道路・河川工事現場における標示施設の設置の徹底について(令和3年6月1日付け国土交通省大臣官房技術調査課建設システム管理企画室長事務連絡)を参考にすること。~~

~~⑲ (CCUS活用推奨工事[受注者希望型]) 【災害復旧工事、受託工事は対象外(当該項目を削除する)】~~

~~本工事は、受注者希望型の対象工事である。CCUSの活用を希望する場合は、最新の「鳥取県建設キャリアアップシステム活用推奨工事(受注者希望型)特記仕様書」によること。~~

~~仕様書の改定状況は<https://www.pref.tottori.lg.jp/291820.htm>を参照すること。~~

~~⑳ (遠隔臨場)~~

~~本工事は、遠隔臨場の対象工事である。遠隔臨場の活用を希望する場合は、<https://www.pref.tottori.lg.jp/307254.htm>に掲載された本工事調達公告日時点で最新の「鳥取県建設工事・測量等業務の遠隔臨場に関する実施要領」によること。~~

~~㉑ (施工管理システム)~~

~~本工事は、施工管理システムの利用可能工事(試行)である。施工管理システムの活用を希望する場合は、事前に監督員と協議を行うこと。なお、利用に関するアンケート調査に協力すること。対象とする施工管理システムは以下のホームページに掲載されたものである。~~

~~<https://www.pref.tottori.lg.jp/310672.htm>~~

その他

~~② (快適トイレの試行)~~

~~1. 内容~~

~~受注者は、現場に以下の(1)～(11)の仕様を満たす快適トイレを設置することを原則とする。~~

~~(12)～(17)については、満たしていればより快適に使用出来ると思われる項目であり、必須ではない。~~

~~【快適トイレに求める機能】~~

- ~~(1) 洋式便器~~
- ~~(2) 水洗及び簡易水洗機能(し尿処理装置付き含む)~~
- ~~(3) 臭い逆流防止機能~~
- ~~(4) 容易に開かない施錠機能~~
- ~~(5) 照明設備~~
- ~~(6) 衣類掛け等のフック、又は、荷物の置ける棚等(耐荷重を5kg以上とする)~~

~~【付属品として備えるもの】~~

- ~~(7) 現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示~~
- ~~(8) 周囲からトイレの入口が直接見えない工夫~~
- ~~(9) サニタリーボックス(女性用トイレに必ず設置)~~
- ~~(10) 鏡と手洗器~~
- ~~(11) 便座除菌クリーナー等の衛生用品~~

~~【推奨する仕様、付属品】~~

- ~~(12) 室内寸法900×900mm以上(面積ではない)~~
- ~~(13) 擬音装置(機能を含む)~~
- ~~(14) 着替え台~~
- ~~(15) 臭気対策機能の多重化~~
- ~~(16) 室内温度の調整が可能な設備~~
- ~~(17) 小物置き場(トイレットペーパー予備置き場等)~~

~~2. 快適トイレに要する費用【災害復旧工事以外】~~

~~快適トイレに要する費用については、当初は計上していない。~~

~~受注者は、上記1の内容を満たす快適トイレであることを示す書類を添付し、規格・基数等の詳細について監督員と協議することとし、精算変更時において、見積書を提出するものとする。~~

~~【快適トイレに求める機能】(1)～(6)及び【付属品として備えるもの】(7)～(11)の費用については、従来品相当を差し引いた後、51,000円/基・月を上限に設計変更の対象とする。~~

~~なお、設計変更数量の上限は、男女別で各1基ずつ2基/工事(施工箇所)※までとする。~~

~~また、運搬・設置費は共通仮設費(率)に含むものとし、2基/工事(施工箇所)※より多く設置する場合や積算上限額を超える費用については、現場環境改善費(率)を想定しており、別途計上は行わない。~~

~~※「施工箇所が点在する工事の積算」適用工事や施工延長が長いなどのトイレを施工箇所に応じて複数設置する必要性が認められる工事については、「工事」を「施工箇所」に読み替え、個々の施工箇所で計上できるものとする。~~

~~3. その他~~

~~快適トイレの手配が困難の場合は、監督員と協議の上、試行の対象外とする。~~

その他

工事設計書

施工年度	令和 07 年度
事業区分	
路線名等 河川名等	町道本笏賀線
工事名	笏賀3号橋橋梁補修工事
施工位置	東伯郡三朝町笏賀地内
設計金額	
工事概要	橋梁補修工事（笏賀3号橋 橋長L=8.03m 幅員W=3.60m） 断面修復工（左官工法） （充填工法） N=1構造物（鉄筋外シ・防錆処理有り） V=0.01m ³ V=0.02m ³ 湿式塗膜剥離工 A=38m ² 塗替え塗装工（錆転換型防食塗装） A=38m ² 目地補修工 L=7.6m 舗装打ち換え工 A=8m ² 構造物撤去工 N=1式 仮設工 N=1式

総括情報表

事務所 設計書名 変更回数 事業名 適用単価区分 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系 ファイル名	78 三朝町 設計書 当初 07-*****-00001-10 0 1 実施単価 23 三朝町 00-07.07.10(0) 1 公共				
	当 世 代	前 世 代		当 世 代	前 世 代
工種 現場環境改善費 施工地域 契約保証区分 豪雪割増 工事価格端数処理 工期算定区分 週休二日補正係数	08 鋼橋架設 00 率計上しない 13 一般交通影響有り(2) 01 金銭保証(0.04%) 01 豪雪割増あり 00 千円止め(土木) 01 算出する 13 完全週休2日				

本工事費 内訳書

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
本工事費						X1000
橋梁保全工事						Y1G03 (レ [^] ル1)
橋梁補修工			一式			Y1G0324 (レ [^] ル2)
断面修復工			一式			Y1G032405 (レ [^] ル3)
左官工法			一式			Y1G03240501 (レ [^] ル4)
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積0.1m3未満の場合	1		構造物			S1020039 00 A=1,B=0.01 単第0 -0001 表 070710
充填工法			一式			Y4999 (レ [^] ル4)
構造物とりこわし工(鉄筋構造物) 人力施工	0.02		m3			SDT00033 00 A=1,B=2,D=1 単第0 -0002 表 070710
小規模無収縮モルタル工 半日施工(0.4m3未満) V=0.02m3 R7橋梁補修補強工事積算の手引き243頁	1		一式			V1001 00 単第0 -0003 表 070710

本工事費 内訳書

頁0-0004

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
型枠 一般型枠 小型構造物	0.1	m2			SPK24040155 00 A=1, B=2, C=1 単第0 -0005 表 070710
現場塗装工		一式			Y1G0325 (レ [^] Ⅱ2)
塗膜除去工		一式			Y3999 (レ [^] Ⅲ3)
湿式塗膜剥離剤		一式			Y4999 (レ [^] Ⅳ4)
湿式塗膜剥離剤塗布・塗膜除去(2回施工) 鋳桁構造・時間的制約無し 100㎡未満(小規模面積施工)	38	㎡			V2001 00 単第0 -0006 表 070710
廃材の回収・積込(2回施工) 100㎡未満	38	㎡・回			V2003 00 単第0 -0008 表 070710
【工】剥離剤および塗料かす運搬工	1	車			F10003 00 070710
有害物質含有廃塗膜処分 鉛含有	103	k g			F50000 00 070710
【材】50Lペール缶	3	缶			F10012 00 070710

本工事費 内訳書

頁0-0005

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋梁塗装工 塗替え塗装 支承防錆工 錆転換型防食塗装		一式			Y1G032501 (レ ^レ ル3)
素地調整		m2			Y1G03250101 (レ ^レ ル4)
【工】素地調整 2種 ^レ 相当 (塗膜剥離後の2種 ^レ)					V2005 00
見積	38	m ²			単第0 -0010 表 070710
【材工】錆転換型防食塗装 表面処理 脱脂剤兼用防錆皮膜処理剤 (40g/m ²)					V2006 00
見積	38	m ²			単第0 -0011 表 070710
下塗		m2			Y1G03250102 (レ ^レ ル4)
【材工】錆転換型防食塗装 下塗り (1層目) 変性 ^レ 樹脂特殊塗料下塗り (100g/m ²)					V2007 00
見積	38	m ²			単第0 -0012 表 070710
【材工】錆転換型防食塗装 下塗り (2層目) 変性 ^レ 樹脂特殊塗料下塗り (100g/m ²)					V2008 00
見積	38	m ²			単第0 -0013 表 070710
中塗		m2			Y1G03250103 (レ ^レ ル4)
【材工】錆転換型防食塗装 中塗 弱溶剤形 ^レ 樹脂塗料用中塗 (赤系) (140g/m ²)					V2009 00
見積	38	m ²			単第0 -0014 表 070710

本工事費 内訳書

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
上塗					Y1G03250104 (レ ^ハ Ⅱ4)
		m2			
【材工】錆転換型防食塗装 上塗 弱溶剤形フッ素樹脂塗料用上塗(赤系) (120g/m2) 見積	38	m ²			V2010 00 単第0 -0015 表 070710
舗装工					Y1G0304 (レ ^ハ Ⅱ2)
		一式			
舗装打換え工					Y1G030402 (レ ^ハ Ⅱ3)
		一式			
舗装版切断					Y1G03040201 (レ ^ハ Ⅱ4)
		m			
舗装版切断 コンクリート舗装版 コンクリート舗装版厚15cm以下	12	m			SPK24040306 00 A=2, C=1, E=1 単第0 -0016 表 070710
舗装版破碎					Y1G03040202 (レ ^ハ Ⅱ4)
		m2			
コンクリートはつり 平均はつり厚3cmを超え6cm以下	8	m2			SPK24040116 00 A=2, B=1 単第0 -0017 表 070710
表層					Y1G03040211 (レ ^ハ Ⅱ4)
		m2			

本工事費 内訳書

頁0-0007

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 18-8-40BB 人力打設	0.4	m3			SPK24040153 00 A=1, B=3, C=2, F=2, H=2, J=1, K=1 単第0 -0018 表 070710
橋梁付属物工		一式			Y1G0321 (レバ Ⅱ2)
目地補修工		一式			Y3999 (レバ Ⅲ3)
目地材充填		一式			Y4999 (レバ Ⅳ4)
【工】遊間部清掃 既設目地					V1007 00
見積	7.6	m			単第0 -0019 表 070710
目地材充填工 8×16mmゴム状高弾性目地 プライマ、バックアップ材含む					V1008 00
見積	3.8	m			単第0 -0020 表 070710
目地材充填工 20×40mmゴム状高弾性目地 プライマ、バックアップ材含む					V1009 00
見積	3.8	m			単第0 -0021 表 070710
構造物撤去工		一式			Y1G0327 (レバ Ⅱ2)
運搬処理工		一式			Y1G032716 (レバ Ⅲ3)

本工事費 内訳書

積込	費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
						Y4999 (レ [^] Ⅱ4)
	積込(コンクリート殻)		一式			SPK24040117 00 A=1
		0.03	m3			単第0 -0022 表 070710
	殻運搬					Y1G03271601 (レ [^] Ⅱ4)
			m3			
	殻運搬 Co(無筋)構造物とりこわし DID区間無し 運搬距離18.5km以下(14.4km超)					SPK24040151 00 A=1, B=1, C=1, D=56, E=1
		0.4	m3			単第0 -0023 表 070710
	殻処分					Y1G03271602 (レ [^] Ⅱ4)
			m3			
	投棄料					#0041 C=投棄料
			一式			
	処分費 コンクリート(無筋) (有)河本建設 県単価					F10000 00
		0.9	t			070710
	仮設工					Y1G0328 (レ [^] Ⅱ2)
			一式			
	足場工					Y3999 (レ [^] Ⅱ3)
			一式			

本工事費 内訳書

頁0-0009

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
吊足場									Y4999	(レール4)
				一式						
吊足場 タイプA1 桁高h<1.5									VA0001	00
R7橋梁架設工事の積算4-12頁	25		m ²						単第0 -0024	表 070710
床面シート張防護工 (タイプA1~A3対応)									VA0123	00
R7橋梁架設工事の積算4-12頁	25		m ²						単第0 -0025	表 070710
朝顔 タイプB									VB0001	00
R7橋梁架設工事の積算4-12頁	25		m ²						単第0 -0026	表 070710
シート張防護工 タイプBに加算・対応									VB0013	00
R7橋梁架設工事の積算4-12頁	25		m ²						単第0 -0027	表 070710
湿式塗膜剥離剤工用養生シート工 中段足場養生無し 1回目									V0023	00
R7橋梁架設工事の積算4-160頁	25		m ²						単第0 -0028	表 070710
湿式塗膜剥離剤工用養生シート工 中段足場養生無し 2回目									V0023	00
R7橋梁架設工事の積算4-160頁	25		m ²						単第0 -0029	表 070710
足場(吊りチェーン)盛り替え工									V00100	00
R7橋梁架設工事の積算4-12頁	25		m ²						単第0 -0030	表 070710
環境対策資機材費									Y4999	(レール4)
				一式						

本工事費 内訳書

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
簡易型セキュリテイルーム シート・フレームセット W1500×L4500×H2000 相当品 見積	1	一式			F3008 00 070710
エアシャワーユニット VAS-0004C相当品 見積	1	一式			F3009 00 070710
交通管理工		一式			Y1G032821 (レ ^ハ Ⅱ3)
交通誘導警備員		人			Y1G03282101 (レ ^ハ Ⅱ4)
交通誘導警備員B	4	人			R0369 00 070710 1
** 直接工事費 **					
技術管理費					Z0006
塗膜剥離試験費 水系塗膜剥離剤 仕様決定剥離剤決定根拠、3種類比較 見積	1	回			V9001 00 単第0 -0031 表 070710
安全費					Z0009

本工事費 内訳書

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
安全衛生防護費						V0024 00
	1		一式			単第0 -0032 表 070710
共通仮設費						
** 共通仮設費計 **						
** 純工事費 **						
現場管理費						
** 工事原価 **						
一般管理費率分						
契約保証費						
一般管理費計						

本工事費 内訳書

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
** 工事価格 **					
** 消費税相 当額 **					
** 工事費計 **					

施工単価表

断面修復工(左官工法)
(鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む)

S1020039
修復延べ体積0.1m3未満の場合

単第0 -0001 表

1 構造物 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	2.300	人			RTPC00009 9
特殊作業員	3.800	人			RTPC00001 9
普通作業員	2.500	人			RTPC00002 9
断面修復材 ポリマーセメントモルタル	0.012	m ³			F000000001 県単価
諸雑費	11	%			#09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=1 【F】断面修復材(m3)			B=0.01	断面修復材の設計数量(m3/構造物)	
断面修復材の使用数量 = 設計数量(m3) * (1 + ロス率) = 0.01000000 * (1 + 0.18) = 0.012(m3) 小数第4位四捨五入小数第3位止め					

施工単価表

小規模無収縮モルタル工
 半日施工(0.4m3未満)

V1001
 V=0.02m3

単第0 -0003 表
 R7橋梁補修補強工事積算の手引き243頁

1 式 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.5	人			RTPC00009 9
特殊作業員	1.5	人			RTPC00001 9
普通作業員	1	人			RTPC00002 9
無収縮モルタル	0.01	m ³			V1002 単第0-0004 表 R5土木工事標準積算基準書 -7- -13
諸雑費	6	%			#09 労務費合計の6%
*** 単位当たり ***	1	一式			

施工単価表

SPK24040155

単第0 -0005 表

型枠

一般型枠

小型構造物

1

m2 当り

機械構成比: 0.00%

労務構成比: 100.00%

材料構成比: 0.00%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機材規格	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	43.77%		型わく工		RTPC00010 RTPT00010
普通作業員	31.27%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	11.92%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
A=1 一般型枠 C=1 -(全ての費用)			B=2 小型構造物		

施工単価表

湿式塗膜剥離剤塗布・塗膜除去（2回施工）
 鈹桁構造・時間的制約無し

V2001

100m²未満（小規模面積施工）

単第0 -0006 表

10

m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
【工】湿式塗膜剥離剤塗布・塗膜除去 鈹桁構造、時間的制約なし、100m ² 未満	10	m ²			V2002 単第0-0007 表
塗膜剥離剤 STRIPPER 中性型水系剥離剤 ECO 同等品 標準塗布量：1.0kg/m ² 、収率：7%	10.7	kg			見積 F10004 建設物価196頁（全国）
塗膜剥離剤 STRIPPER 中性型水系剥離剤 ECO 同等品 標準塗布量：1.0kg/m ² 、収率：7%	10.7	kg			F10004 建設物価196頁（全国）
諸雑費	1	式			#91
*** 合計 ***	10	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

施工単価表

単第0 -0007 表

V2002

【工】湿式塗膜剥離剤塗布・塗膜除去
 鉋桁構造、時間の制約なし、100m2未満

10 m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.55	人			RTPC00009
橋梁塗装工	2.2	人			R0230
諸雑費	10	%			#09 労務費の10%
*** 合計 ***	10	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

施工単価表

V2004

単第0 -0009 表

【工】廃材の回収・積込
100m2未満

38 m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.14	人			RTPC00009
橋梁塗装工	4.56	人			R0230
諸雑費	10	%			#09 労務費の10%
*** 合計 ***	38	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

施工単価表

単第0 -0010 表

V2005

【工】素地調整
2種ケソ相当(塗膜剥離後の2種ケソ)

38 m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1	人			RTPC00009
橋梁塗装工	3	人			R0230
諸雑費	15	%			#09 労務費の15%
*** 合計 ***	38	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

施工単価表

【材工】 鍍転換型防食塗装 下塗り (1層目)
 変性エポキシ樹脂特殊塗料下塗り (100g/m²)

V2007

単第0 -0012 表

38 m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
橋梁塗装工	1	人			R0230 9
変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗り 防錆塗料 0.1kg/m ² 0.8% 4kg/セット EARTH COAT防錆塗料同等品	1	セット			F1007 見積 9
アースコート防錆塗料専用シンナー 4L/缶 EARTH COAT防錆塗料同等品	0.5	缶			F1008 見積 9
諸雑費	10	%			#09 全体の10%
*** 合計 ***	38	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

施工単価表

【材工】 鍍転換型防食塗装 下塗り (2層目)
 変性エポキシ樹脂特殊塗料下塗り (100g/m²)

V2008

単第0 -0013 表

38

m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
橋梁塗装工	1	人			R0230 9
変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗り 防錆塗料 0.1kg/m ² 0.8% 4kg/セット EARTH COAT防錆塗料同等品	1	セット			F1007 見積 9
アースコート防錆塗料専用シンナー 4L/缶 EARTH COAT防錆塗料同等品	0.5	缶			F1008 見積 9
諸雑費	10	%			#09 全体の10%
*** 合計 ***	38	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

施工単価表

【材工】鍍転換型防食塗装 中塗
弱溶剤形フッ素樹脂塗料用中塗(赤系)

V2009
(140g/m2)

単第0 -0014 表

38 m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
橋梁塗装工	1	人			R0230 9
弱溶剤形変性フッ素樹脂塗料用中塗 中塗F 赤系 0.14kg/m2 0.8% 16kg/㊦ EARTH COAT中塗F同等品	1	㊦			F1009 見積 9
諸雑費	10	%			#09 全体の10%
*** 合計 ***	38	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

施工単価表

【材工】鍍転換型防食塗装 上塗

V2010

単第0 -0015 表

弱溶剤形フッ素樹脂塗料用上塗(赤系)

(120g/m2)

見積

38

m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
橋梁塗装工	1	人			R0230 9
弱溶剤形変性フッ素樹脂塗料 上塗F 赤系 0.12kg/m2 0.8% 14kg/㊦ EARTH COAT上塗F同等品	1	㊦			F1010 見積 9
諸雑費	10	%			#09 全体の10%
*** 合計 ***	38	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

施工単価表

舗装版切断
コンクリート舗装版

SPK24040306

コンクリート舗装版厚15cm以下

単第0 -0016 表

1

m 当り

機械構成比: 13.36% 労務構成比: 49.56%

材料構成比: 37.08%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッター バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径 56cm	9.09%		コンクリートカッター バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径 56cm		MTPC00164 MTPT00164
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	16.98%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	9.17%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員	7.58%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
コンクリートカッターブレード 自走式切断機用 径45cm(18インチ)	33.48%		コンクリートカッターブレード 径18インチ		TTPC00394 TTPT00394
ガソリン レギュラー スタンド	2.45%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
その他(材料)			その他(材料)		EZ009

施工単価表

舗装版切断
 コンクリート舗装版

SPK24040306

単第0 -0016 表

コンクリート舗装版厚15cm以下

1

m 当り

機械構成比： 13.36% 労務構成比： 49.56%

材料構成比： 37.08%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
積算単価			積算単価		EP001
A=2 E=1 コンクリート舗装版 -(全ての費用)			C=1 コンクリート舗装版厚15cm以下		

施工単価表

コンクリートはつり
平均はつり厚3cmを超え6cm以下

SPK24040116

単第0 -0017 表

1

m2 当り

機械構成比: 1.47% 労務構成比: 95.31%

材料構成比: 3.22%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>空気圧縮機(エンジンコンプレッサ) 吐出量5.0m3/min 吐出圧力0.7MPa	1.43%		空気圧縮機 [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型] 5m3/min		KTPC00030 KTPT00030
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	41.17%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	31.16%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	20.21%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
軽油 小型ローリー(パトロール給油)	3.13%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		EP001

施工単価表

SPK24040116

単第0 -0017 表

コンクリートはつり
平均はつり厚3cmを超え6cm以下

機械構成比： 1.47% 労務構成比： 95.31% 材料構成比： 3.22% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1

m2 当り

代表機材規格	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
A=2 平均はつり厚3cmを超え6cm以下			B=1 -(全ての費用)		

施工単価表

単第0 -0018 表

コンクリート

SPK24040153

無筋・鉄筋構造物 18-8-40BB

人力打設

1

機械構成比： 0.00%

労務構成比： 29.40%

材料構成比： 70.60%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

m3 当り

代表機材規格	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	13.20%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊作業員	7.51%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	6.69%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
レディーミクストコンクリート 高炉 18-8-40 W/C60%以下	70.60%		生コンクリート 高炉 24-12-25(20) W/C 55%		TTPCD0010 TTPT00343
積算単価			積算単価		E9999
A=1 無筋・鉄筋構造物 C=2 18-8-40BB H=2 現場内小運搬無し K=1 -(全ての費用)			B=3 人力打設 F=2 一般養生 J=1 -		

施工単価表

単第0 -0019 表

V1007

【工】遊間部清掃

既設目地

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.8	人			RTPC00009
特殊作業員	1.6	人			RTPC00001
普通作業員	0.8	人			RTPC00002
雑材料	15	%			#09
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当たり ***	1	m			

施工単価表

単第0 -0020 表

目地材充填工
8×16mmゴム状高弾性目地

V1008
プライマ-、ハックアップ材含む

見積

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.5	人			RTPC00009 9
特殊作業員	3.0	人			RTPC00001 9
普通作業員	1.5	人			RTPC00002 9
ホリパツイン系弾性シール材 ノサグタイプ BIN-ス-パ-シールJ2 2L/セット 比重1.1 収率10%	1.408	L			F2001 見積 9
プライマ- プライマ-U 0.8kg/缶 0.1kg/m2 収率10%	0.0352	kg			F2002 見積 9
ハックアップ材 ウレタンフォーム 収率50%	1.92	L			F2003 見積 9
諸雑費	15	%			#09 全体合計の15%
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当たり ***	1	m			

施工単価表

単第0 -0021 表

目地材充填工
20×40mmゴム状高弾性目地

V1009
プライマー、ハックアップ材含む

見積

10 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.4	人			RTPC00009 9
特殊作業員	2.8	人			RTPC00001 9
普通作業員	1.4	人			RTPC00002 9
ホリタツイン系弾性シール材 ノサグタイプ BIN-スーパーシールJ2 2L/セット 比重1.1 収率10%	8.8	L			F2001 見積 9
プライマー プライマー-U 0.8kg/缶 0.1kg/m2 収率10%	0.088	kg			F2002 見積 9
ハックアップ材 ウレタンフォーム 収率50%	12.0	L			F2003 見積 9
諸雑費	15	%			#09 全体合計の15%
*** 合計 ***	10	m			
*** 単位当たり ***	1	m			

積込(コンクリート殻)

SPK24040117

施工単価表

単第0 -0022 表

頁0-0036

機械構成比: 9.77% 労務構成比: 86.03% 材料構成比: 4.20% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 1

m3 当り

代表機労材規格	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ(クローラ型) 標準型・排2014 山積0.8/平積0.6m3	9.77%		バックホウ(クローラ型) 標準型・排2014 山積0.8/平積0.6m3)		MTPC00153 MTPT00153
普通作業員	77.50%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
特殊運転手	8.53%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 小型ローリー(パトロール給油)	4.20%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 -(全ての費用)					

施工単価表

単第0 -0023 表

殻運搬

SPK24040151

Co(無筋)構造物とりこわし

DID区間無し 運搬距離18.5km以下(14.4km超)

1

m3 当り

機械構成比: 41.69% 労務構成比:

43.88% 材料構成比: 14.43%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	41.69%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00018T1 MTPT00018T1
一般運転手	43.88%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 小型ローリー(パトロール給油)	14.43%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 Co(無筋)構造物とりこわし C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=56 運搬距離18.5km以下(14.4km超)		

足場(吊りチェーン)盛り替え工

V00100

施工単価表

単第0 -0030 表

頁0-0044

R7橋梁架設工事の積算4-12頁

200

m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
橋りょう世話役	1	人			RTPC00021 9
橋りょう特殊工	3	人			RTPC00020 9
普通作業員	1	人			RTPC00002 9
諸雑費	20	%			#09 労務費合計の20%
*** 合計 ***	200	m ²			
*** 単位当たり ***	1	m ²			

施工単価表

塗膜剥離試験費
水系塗膜剥離剤

V9001
仕様決定剥離剤決定根拠、3種類比較
見積

単第0 -0031 表

1 回 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.75	人			RTPC00009 9
橋梁塗装工	3.5	人			R0230 9
諸雑費	10	%			#09 労務費の20%
*** 単位当たり ***	1	回			

施工単価表

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
電動ファン付き呼吸用保護具 Sy11V3相当	3	個			F3001 見積
呼吸用保護具用フィルター 呼吸用保護具 交換品	24	個			F3002 見積
使い捨て化学防護服 JIS T 8155-1998適合品	24	着			F3003 見積
化学防護手袋 JIS T 8116適合品	3	組			F3004 見積
化学防護長靴 JIS T 8117適合品	3	足			F3005 見積
シューズカバー	24	足			F3006 見積
防護メガネ M10C-F/VF(ハンフ無し) JIS T 8147	3	個			F3007 見積
諸雑費	1	式			#91
*** 単位当たり ***	1	一式			

1.1 補修数量総括表

橋梁名： 笏賀第3号橋

レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格	単位	数量	設 計 数 量	備 考
橋梁保全工事	構造物補修工	断面修復工 左官工法	左官工法	ポリマーセメントモルタル	m ³	0.01	0.01	
				鉄筋ケレン・防錆処理を含む				
				材料ロス	m ³	0.003	-	ロス率は積算時に計算(18%)
			左官工法 1構造物当り延べ体積	m ³	0.01	0.01		
			殻運搬	m ³	-	-	運搬処理工にて計上	
		殻処分	m ³	-	-	運搬処理工にて計上		
			t	-	-	運搬処理工にて計上		
		断面修復工 充填工法	構造物取壊し	m ³	0.02	0.02		
			充填工法	m ³	0.02	0.02	小規模無収縮モルタル工	
			型枠工	m ²	0.1	0.1		
	殻運搬		m ³	-	-	運搬処理工にて計上		
	殻処分		m ³	-	-	運搬処理工にて計上		
		t	-	-	運搬処理工にて計上			
	現場塗装工	塗膜除去工 湿式塗膜剥離剤	湿式塗膜剥離工(1回目)	湿式塗膜剥離剤工法	m ²	37.5	38	
				材料ロス	kg	2.6	-	標準塗布量：1.0kg/m ² ロス率：7%
				材料合計	kg	40.1	40	
			廃材の回収・積込(1回目)	m ²	37.5	38.0		
			湿式塗膜剥離工(2回目)	m ²	37.5	38.0		
			湿式塗膜剥離剤(2回目)	kg	37.5	-	標準塗布量：1.0kg/m ² ロス率：7%	
			材料ロス	kg	2.6	-		
材料合計			kg	40.1	40			
廃材の回収・積込(2回目)			m ²	37.5	38.0			
剥離剤および塗料かす運搬工			t	0.1	(0.1)	1車		
有害物質含有廃塗膜処分			kg	103.0	103			
50Lペール缶			缶	3	3			
環境対策資機材			式	-	-	仮設工にて計上		
安全衛生防護具			式	-	-	仮設工にて計上		

橋梁名： 笏賀第3号橋

レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格	単位	数量	設 計 数 量	備 考	
	現場塗装工	橋梁塗装工 塗替え塗装 錆転換型防食塗装 7-スコト同等品以上	素地調整	2種ケレン	m ²	37.5	38		
			表面処理	脱脂剤兼用防錆被膜処理剤	m ²	37.5	38	標準塗布量：40g/m ²	
			下塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗	m ²	37.5	38	標準塗布量：100g/m ²	
			下塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗	m ²	37.5	38	標準塗布量：100g/m ²	
			中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	m ²	37.5	38	(赤系) 標準塗布量：140g/m ²	
			上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	m ²	37.5	38	(赤系) 標準塗布量：120g/m ²	
	支承被覆工	支承被覆工	ゴム支承用耐候性表面保護材	HBコート ソフトタイプ	本	1	-	補修工事対象外	
	舗装工	舗装版切断工	舗装版切断	舗装版切断	コンクリート舗装 t=15cm以下	m	12.2	12	車道部
				舗装版破碎工	舗装版破碎	コンクリート舗装 障害有り 厚4~10cm以下 積込有り	m ²	8.4	8
		舗装版破碎工	舗装版破碎	舗装版破碎	舗装版破碎	m ³	-	-	運搬処理工にて計上
殻運搬				舗装版破碎	m ³	-	-	運搬処理工にて計上	
殻処分				アスファルト殻	m ³	-	-	運搬処理工にて計上	
コンクート舗装工	コンクート舗装 σ _{ck} =18N/mm ²	コンクート舗装	打設量10m ³ /日未満かつ打設地上高さ 2m以下 一般養生 現場内小運搬無	m ³	0.4	0.4	t _{min} =50mm		
		材料ロス		m ³	0.02	-	施工歩掛に含む		
橋梁付属物工	伸縮部止水工 目地材充填 TS目地材ト`N相当品	下地処理	遊間部清掃		m	7.6	7.6		
			目地材充填	ゴム状高弾性目地材 8×16mm	m	3.8	3.8		
			目地材充填	ゴム状高弾性目地材	kg	0.8	0.8	ロス率：20%含む	
			目地材充填	ゴム状高弾性目地材 20×40mm	m	3.8	3.8		
			目地材充填	ゴム状高弾性目地材	kg	5.1	5.1	ロス率：20%含む	
			バックアップ材	ウレタンフォーム 8×16mm	m	3.8	12.7		
			バックアップ材	ウレタンフォーム	ℓ	0.6	0.6	ロス率：20%含む	
			バックアップ材	ウレタンフォーム 20×40mm	m	3.8	12.7		
バックアップ材	ウレタンフォーム	ℓ	3.6	3.6	ロス率：20%含む				

橋梁名： 笏賀第3号橋

レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格	単位	数量	設計 数量	備考	
	構造物撤去工	運搬処理工	殻運搬	コンクリート（無筋）	m ³	0.03	0.03	ΣV=0.37m3	
				舗装版破碎	m ³	0.34	0.3		
			殻処分	コンクリート（無筋）	m ³	0.37	-		
					t	0.86	0.9		
	仮設工	仮設足場工	吊足場	TYPE A1 吊足場 桁高h<1.5	m ²	25	25		
				床面シート張防護	床面シート張防護設置時	m ²	25	25	
				朝顔	TYPE B 朝顔（両側）	m ²	25	25	
				防護工	TYPE B シート張防護工（両側）	m ²	25	25	
				足場（吊りチェーン盛り替え工		m ²	25	25	
				塗膜剥離剤工用養生設備工	剥離剤工用養生設備	m ²	25	25	2回剥離
環境対策資機材費		環境対策資機材	セキュリティルーム、シャワーユニット	式	1	1			
			安全衛生防護具	式	1	1	安全費に計上		

1.2 断面修復工（左官工法）

※断面修復深さは、鉄筋探査等が行われていないため、50mmと仮定した。

補修図（その1～3）より

1.2.1 左官工法

（1）延べ施工量

1) ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

$$v1 = 0.014 = 0.014 \text{ m}^3$$

$$v2 = 0.014 \times \frac{0.18}{\text{ロス率18\%}} = \frac{0.003 \text{ m}^3}{\Sigma V = 0.017 \text{ m}^3}$$

1.2.2 殻運搬（※ 運搬処理工にて計上）

（1）コンクリート構造物

$$V = 0.014 = 0.014 \text{ m}^3$$

※ 殻数量は、断面修復数量と同量と仮定した。

1.2.3 殻処分（がれき類）（※ 運搬処理工にて計上）

$$V = 0.014 = 0.014 \text{ m}^3$$

$$W = 0.014 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.033 \text{ t}$$

1.2.4 左官工法 数量表

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 (m × m)	補修面積 (m ²)	補修深さ (m)	塗布面積 (m ²)	補修体積 (m ³)	備 考
D 1	床版	0.10 × 0.20	0.020	0.050	0.050	0.0010	
	小計		0.020		0.050	0.0010	ケレン・防錆:有
D 1	A1橋台	0.10 × 0.10	0.010	0.050	0.030	0.0005	
	小計		0.010		0.030	0.0005	ケレン・防錆:有
D 2 3	A2橋台	0.10 × 0.25 0.05 × 0.10	0.025 0.005	0.050 0.050	0.060 0.020	0.0013 0.0003	
	小計		0.030		0.080	0.0016	ケレン・防錆:有
D 1	橋面	0.25 × 0.85	0.213	0.050	0.323	0.0106	
	小計		0.213		0.323	0.0106	ケレン・防錆:有
鉄筋ケレン・防錆処理を含む合計			0.273		0.483	0.014	
鉄筋ケレン・防錆処理を含まない合計							
合計			0.273		0.483	0.014	

1.3 断面修復工（充填工法）

補修図（その1）より

1.3.1 充填工法

- (1) 充填工法（無収縮モルタル）
構造物取壊し（鉄筋構造物）

$$V = 0.016 \quad = \quad 0.016 \text{ m}^3$$

- (2) 型枠工（一般型枠 鉄筋コンクリート）

$$A = 0.113 \quad = \quad 0.113 \text{ m}^2$$

1.3.2 殻運搬（※ 運搬処理工にて計上）

- (1) コンクリート構造物

$$V = 0.016 \quad = \quad 0.016 \text{ m}^3$$

※ 殻数量は、断面修復数量と同量と仮定した。

1.3.3 殻処分（がれき類）（※ 運搬処理工にて計上）

$$V = 0.016 \quad = \quad 0.016 \text{ m}^3$$

$$W = 0.016 \times 2.35 \text{ t/m}^3 \quad = \quad 0.037 \text{ t}$$

1.4 塗膜除去工

補修図（その4・5）より

1.4.1 湿式塗膜剥離工

(1) 清掃・水洗い

$$A = \begin{array}{l} 37.497 \\ \text{橋梁塗装工より} \end{array} = 37.497 \text{ m}^2$$

(1) 湿式塗膜剥離工（1回目）（湿式塗膜剥離剤工法）

$$A = \begin{array}{l} 37.497 \\ \text{橋梁塗装工より} \end{array} = 37.497 \text{ m}^2$$

(2) 湿式塗膜剥離剤（1回目）（湿式塗膜剥離剤工法 標準塗布量：1.0kg/m²）

$$w1 = 37.497 \times 1.0 \text{ kg/m}^2 = 37.497 \text{ kg}$$

$$w2 = \begin{array}{l} 37.497 \times 0.07 \\ \text{ロス率7\%} \end{array} = 2.625 \text{ kg}$$

$$\Sigma W = 40.122 \text{ kg}$$

(3) 廃材の回収・積込（1回目）

$$A = 37.497 = 37.497 \text{ m}^2$$

(4) 湿式塗膜剥離工（2回目）（湿式塗膜剥離剤工法）

$$A = 37.497 = 37.497 \text{ m}^2$$

(5) 湿式塗膜剥離剤（2回目）（湿式塗膜剥離剤工法 標準塗布量：1.0kg/m²）

$$w1 = 37.497 \times 1.0 \text{ kg/m}^2 = 37.497 \text{ kg}$$

$$w2 = \begin{array}{l} 37.497 \times 0.07 \\ \text{ロス率7\%} \end{array} = 2.625 \text{ kg}$$

$$\Sigma W = 40.122 \text{ kg}$$

(6) 廃材の回収・積込（2回目）

$$A = 37.497 = 37.497 \text{ m}^2$$

(7) 剥離剤および塗料かす運搬工

1) 湿式剥離剤かす

$$W = 40.122 + 40.122 = 80.244 \text{ kg}$$

2) 塗料かす

・現塗装塗膜仕様

下塗(1層目) : 鉛系さび止めペイント 標準塗布量 : 140g/m²

下塗(2層目) : 鉛系さび止めペイント 標準塗布量 : 140g/m²

中塗 : 長油性フタル酸樹脂塗料中塗り 標準塗布量 : 120g/m²

上塗 : 長油性フタル酸樹脂塗料上塗 標準塗布量 : 110g/m²

$$W1 = 140 + 140 + 120 + 110 = 510 \text{ g/m}^2$$

$$W2 = 37.497 \times 510 / 1000 = 19.123 \text{ kg}$$

塗装系	旧塗装系	素地調整	下塗り	間隔	下塗り	間隔	中塗り	間隔	上塗り
a-1	A-1 A-2	2種	鉛系さび止めペイント1種 140g/m ²	2日～ 10日	鉛系さび止めペイント1種 140g/m ²	2日～ 10日	長油性フタル酸樹脂塗料中塗り 120g/m ²	2日～ 10日	長油性フタル酸樹脂塗料上塗り 110g/m ²
		3種	鉛系さび止めペイント1種 140g/m ² (鋼材面露出部のみ)	2日～ 10日	鉛系さび止めペイント1種 140g/m ²	2日～ 10日			
		4種			鉛系さび止めペイント1種 140g/m ²	2日～ 10日			

出典 : 平成2年 鋼道路橋塗装便覧 より

塗装系	旧塗装系	素地調整	下塗り	間隔	下塗り	間隔	下塗り	間隔	中塗り	間隔	上塗り
b-1	A-1 A-2 B-1	2種	鉛系さび止めペイント1種 140g/m ²	2日～ 10日	鉛系さび止めペイント1種 140g/m ²	2日～ 10日	フェノール樹脂MIO塗料 250g/m ²	2日～ 10日	塩化ゴム系塗料中塗り 170g/m ²	1日～ 10日	塩化ゴム系塗料上塗り 150g/m ²
		3種	鉛系さび止めペイント1種 140g/m ² (鋼材面露出部のみ)	2日～ 10日	鉛系さび止めペイント1種 140g/m ²	2日～ 10日	フェノール樹脂MIO塗料 250g/m ²	2日～ 10日			
		B-1	4種								

出典 : 平成2年 鋼道路橋塗装便覧 より

3) 剥離剤工用養生設備処分

$$A = 25 \times 0.15 \text{ kg/m}^2 = 3.785 \text{ kg}$$

塗膜剥離剤工用養生設備工より

$$\Sigma W = (80.244 + 19.123 + 3.785) / 1000 = 0.103 \text{ t}$$
$$= 103 \text{ kg}$$

1.4.2 有害物質含有廃塗膜処分

$$W = 0.103 = 0.103 \text{ t}$$

50Lペール缶

$$N = 103 \times 1.1 / 50 = 3 \text{ 缶}$$

(想定比重)

1.4.3 環境対策資機材・安全衛生防護具 (有害物質含有廃塗膜除去時)
(※ 仮設工にて計上)

(1) 環境対策資機材 (簡易型セキュリテイルーム)

$$N = 1 = 1 \text{ 式}$$

(2) 安全衛生防護具

$$N = 1 = 1 \text{ 式}$$

1.5 塗替え塗装工

補修図（その4・5）より

1.5.1 橋梁塗装工（錆転換型防食塗装）

(1) 素地調整（2種ケレン）

$$A = 37.497 = 37.497 \text{ m}^2$$

(2) 表面処理（脱脂剤兼用防錆被膜処理剤 標準塗布量：40g/m²）

$$A = 37.497 = 37.497 \text{ m}^2$$

(3) 下塗（変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗 標準塗布量：100g/m²）

$$A = 37.497 = 37.497 \text{ m}^2$$

(4) 下塗（変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗 標準塗布量：100g/m²）

$$A = 37.497 = 37.497 \text{ m}^2$$

(5) 中塗（弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 標準塗布量：140g/m²）

$$A = 37.497 = 37.497 \text{ m}^2$$

(6) 上塗（弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 標準塗布量：120g/m²）

$$A = 37.497 = 37.497 \text{ m}^2$$

1.5.2 橋梁塗装工 数量表

部位	参照番号	計 算 式	面数	個数	Net	塗装面積 (m ²)	適 用
主桁 標準部							
H	G1~G4	8.000 × 36.7kg/m × 0.0317m ² /kg	1	4	100%	37.228	H-300×150×9
		- 8.000 × 0.150	1	4	100%	-4.800	床版との設置面
		- 0.005 × 0.072	2	24	100%	-0.017	V.St.PL.との設置面
V.St.PL.	G1~G4	0.090 × 0.282	2	24	100%	1.218	
		- 0.090 × 0.200	1	12	100%	-0.216	端部横桁との設置面
		- 0.090 × 0.200	1	6	100%	-0.108	中間横桁との設置面
		小計				33.305	
端横桁							
[C1,C3	0.0455 × 0.857	2	6	100%	0.468	[-200×50×4.5
		0.050 × 0.857	2	6	100%	0.514	[-200×50×4.5
		0.200 × 0.857	2	6	100%	2.057	[-200×50×4.5
		- 0.050 × 0.070	1	12	100%	-0.042	主桁との設置面
		- 0.200 × 0.090	1	12	100%	-0.216	V.St.PL.との設置面
中間横桁							
[C2	0.0455 × 0.857	2	3	100%	0.234	[-200×50×4.5
		0.050 × 0.857	2	3	100%	0.257	[-200×50×4.5
		0.200 × 0.857	2	3	100%	1.028	[-200×50×4.5
		- 0.200 × 0.090	1	6	100%	-0.108	V.St.PL.との設置面
		小計				4.192	
		合計				37.497	

1.6 支承被覆工

1.6.1 ゴム支承用耐候性表面保護材 HBコート ソフトタイプ

N = 1 = 1本

1.7 舗装版切断工

補修図（その3）より

1.7.1 舗装版切断 （コンクリート舗装 t=15cm以下）

（1）車道部 （t=4cm(想定)）

$$L = 2.100 \times 2 + 4.000 \times 2 = 12.200 \text{ m}$$

1.8 舗装版破碎工

補修図（その3）より

1.8.1 舗装版破碎

（1） コンクリート舗装 障害有り 厚4～10cm以下 積込有り

1) t=4cm（想定）

$$A = 2.100 \times 4.000 = 8.400 \text{ m}^2$$

1.8.2 殻運搬（※ 運搬処理工にて計上）

（1） 舗装版破碎

$$V = 8.400 \times 0.040 = 0.336 \text{ m}^3$$

1.8.3 殻処分（がれき類）（※ 運搬処理工にて計上）

$$V = 0.336 = 0.336 \text{ m}^3$$

$$W = 0.336 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.790 \text{ t}$$

1.9 コンクリート舗装工

補修図（その3）より

1.9.1 コンクリート舗装 ($\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$ $t=40\text{mm}$)

$$A = 2.100 \times 4.000 = 8.400 \text{ m}^2$$

$$v1 = 0.050 \times 8.400 = 0.420 \text{ m}^3$$

$$v2 = 0.420 \times 0.04 = 0.017 \text{ m}^3$$

ロス率4%

1.10 伸縮部止水工（目地材充填）

補修図（その3）より

1.10.1 下地処理（遊間部清掃）

$$L = 3.800 + 3.800 = 7.600 \text{ m}$$

1.10.2 目地材充填（ゴム状高弾性目地材）

（1） 8×16mm

$$L1 = 3.800 = 3.800 \text{ m}$$

$$v1 = 3.800 \times 0.008 \times 0.016 \times 1400 \times 1.20 = 0.82 \text{ kg}$$

(比重) ロス率20%

（2） 20×40mm

$$L3 = 3.800 = 3.800 \text{ m}$$

$$v1 = 3.800 \times 0.020 \times 0.040 \times 1400 \times 1.20 = 5.11 \text{ kg}$$

(比重) ロス率20%

1.10.3 バックアップ材（ウレタンフォーム）

（1） 8×16mm

$$v1 = 3.800 \times 0.008 \times 0.016 \times 1000 \text{ } \ell/\text{m}^3 = 0.486 \text{ } \ell$$

$$v2 = 0.486 \times 0.20 = 0.097 \text{ } \ell$$

ロス率20%

$$\Sigma V = 0.583 \text{ } \ell$$

（2） 20×40mm

$$v1 = 3.800 \times 0.020 \times 0.040 \times 1000 \text{ } \ell/\text{m}^3 = 3.040 \text{ } \ell$$

$$v2 = 3.040 \times 0.20 = 0.608 \text{ } \ell$$

ロス率20%

$$\Sigma V = 3.648 \text{ } \ell$$

1.11 運搬処理工

1.11.1 殻運搬

※ 運搬は、「運搬距離10km DID区間:無し」程度を想定。

(1) コンクリート構造物

1) 断面修復工 (左官工法) コンクリート (無筋)

$$V = 0.014 = 0.014 \text{ m}^3$$

2) 断面修復工 (充填工法)

$$V = 0.016 = 0.016 \text{ m}^3$$
$$\Sigma V1 = \frac{0.016 \text{ m}^3}{0.030 \text{ m}^3}$$

(2) 舗装版破碎

1) 舗装版破碎工

$$V = 0.336 = 0.336 \text{ m}^3$$

1.11.2 殻処分 (がれき類) コンクリート (無筋)

$$V = 0.030 + 0.336 = 0.366 \text{ m}^3$$

$$W = 0.366 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.860 \text{ t}$$

1.12 仮設足場工

仮設足場図（参考図）より

1.12.1 吊足場

(1) 吊足場 (TYPE A1 吊足場 桁高 $h < 1.5$)

$$A = 3.600 \times 6.828 = 24.581 \text{ m}^2$$

(2) 床面シート張防護 (床面シート張防護設置時)

$$A = 24.581 = 24.581 \text{ m}^2$$

(3) 朝顔 (TYPE B 朝顔(両側))

$$A = 24.581 = 24.581 \text{ m}^2$$

(4) 防護工 (TYPE B シート張防護工(両側))

$$A = 24.581 = 24.581 \text{ m}^2$$

(5) 吊りチェーン盛り替え工

$$A = 24.581 = 24.581 \text{ m}^2$$

1.13 塗膜剥離剤工用養生設備工

仮設足場図（参考図）より

1.13.1 剥離剤工用養生設備

$$A = 3.600 \times 6.828 = 24.581 \text{ m}^2$$

1.14 環境対策資機材費

1.14.1 環境対策資機材・安全衛生防護具 (有害物質含有廃塗膜除去時)

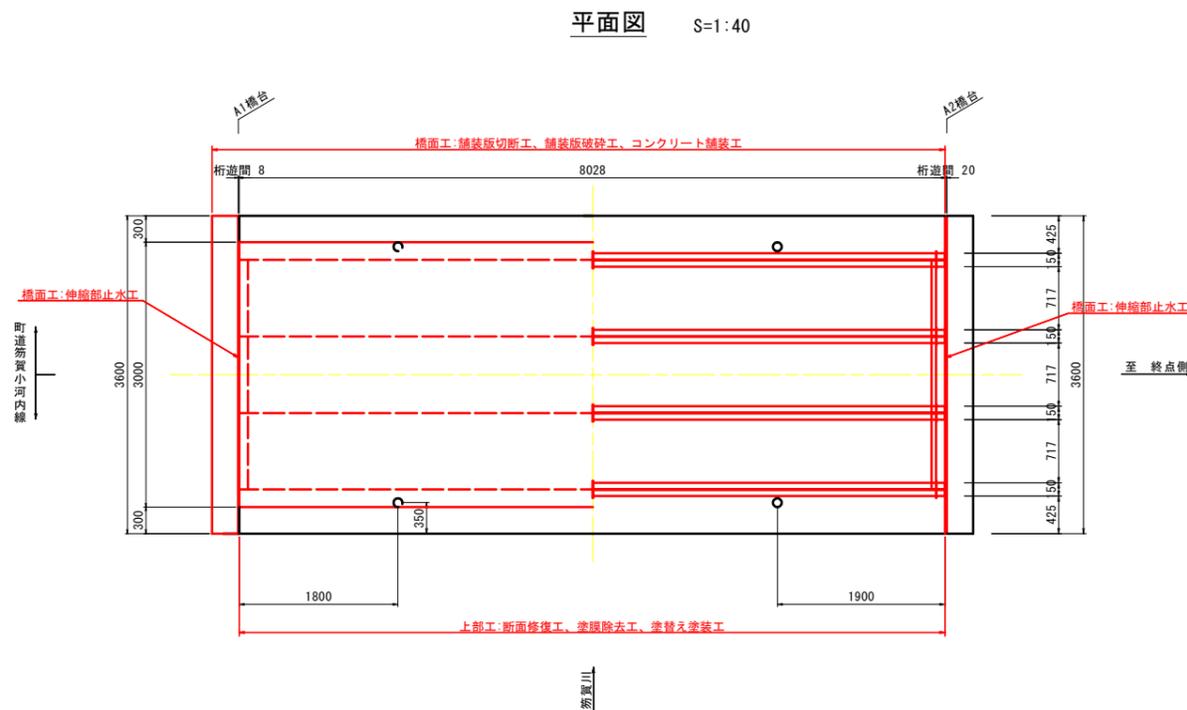
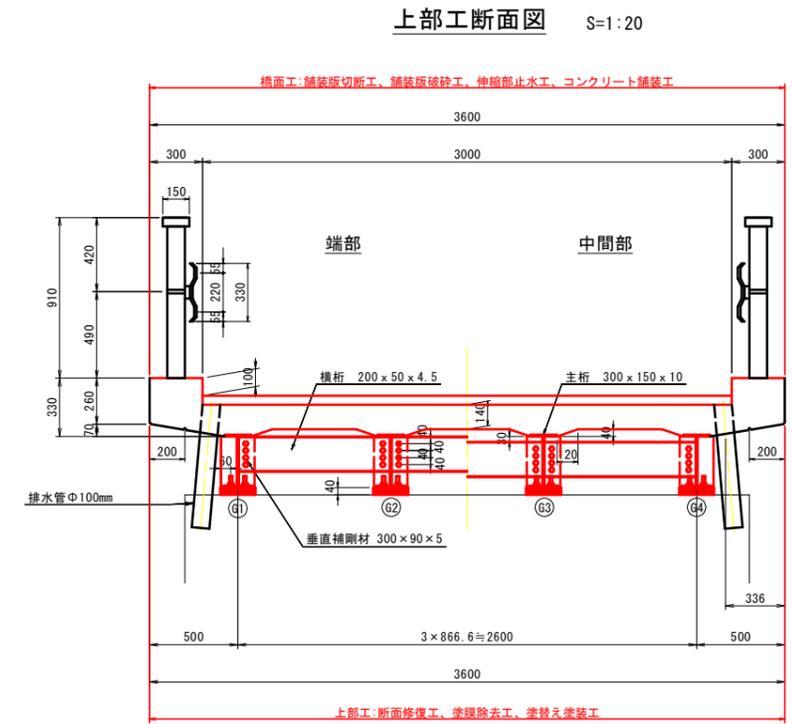
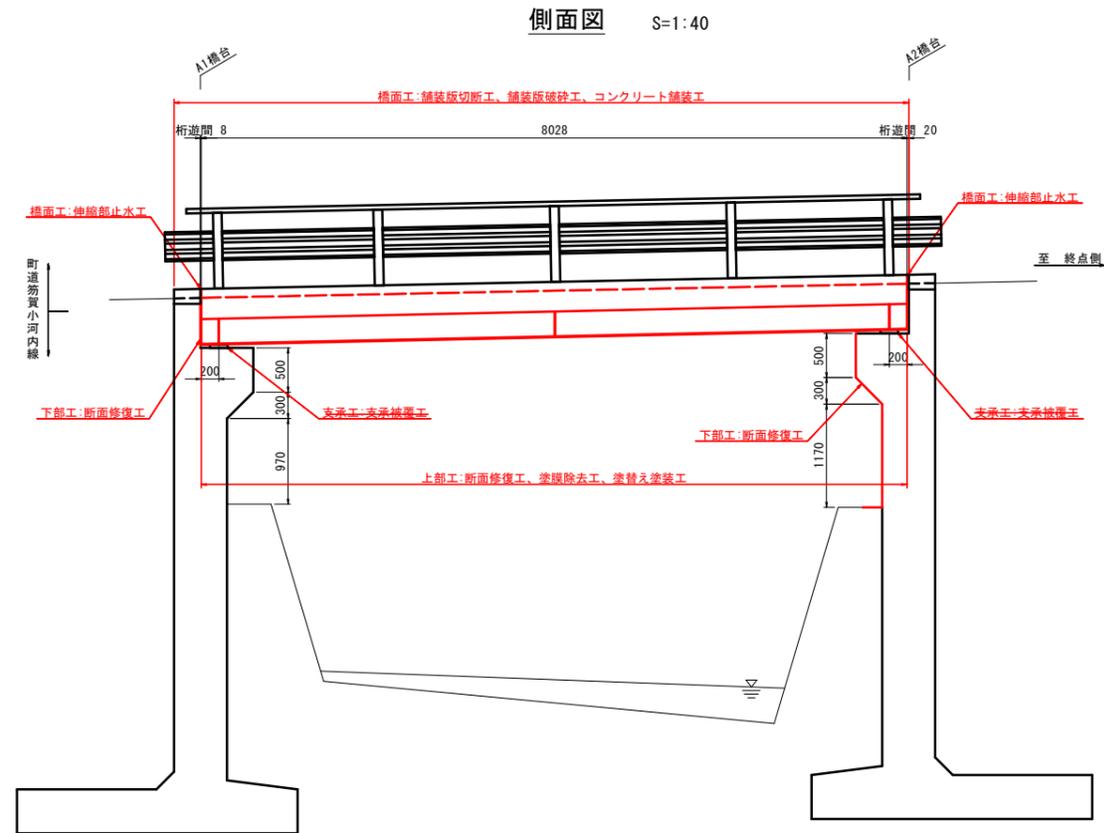
(1) 環境対策資機材

N = 1 = 1 式

(2) 安全衛生防護具

N = 1 = 1 式

笏賀第3号橋 補修一般図



対策工法一覧表

- 舗装版切断工
- 舗装版破砕工
- 伸縮部止水工
- コンクリート舗装工
- 断面修復工
- 塗膜除去工
- 塗替え塗装工
- ~~支保被覆工~~
- 仮設足場工
- 吊足場

設計条件

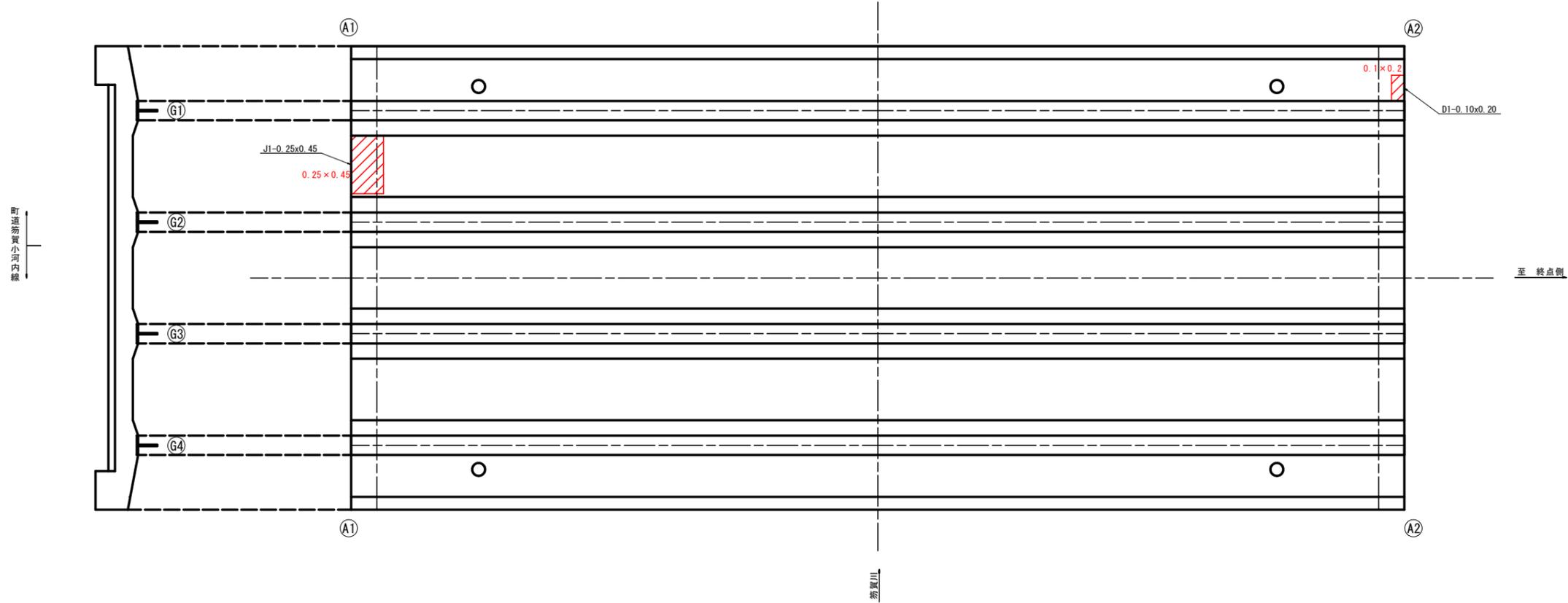
路線名	本笏賀線	
架設年次	昭和46年(橋齢:52年)※橋架換工事竣工図より	
橋長	8.028m	
全幅員	3.600m	
有効幅員	3.000m	
交差物件	笏賀川	
形式	上部工	H桁橋
	下部工	橋台 逆T式橋台
	基礎工	直接基礎
適用基準	鋼道路橋設計示方書案(昭39) ※推定	

笏賀第3号橋

路線名	本笏賀線
笏賀第3号橋橋梁補修工事	
図名	笏賀第3号橋 補修一般図
位置	東伯郡 三朝町 笏賀 地内
縮尺	図示 単位 mm
図号	全 8 葉中の内 1
令和 7 年度施行 三朝町	
三朝町 建設水道課	

注) 本図面は、橋架換工事竣工図を用いて現地調査を行い作成したものである。施工前には必ず現況寸法実測を行い、計画内容と照合すること。

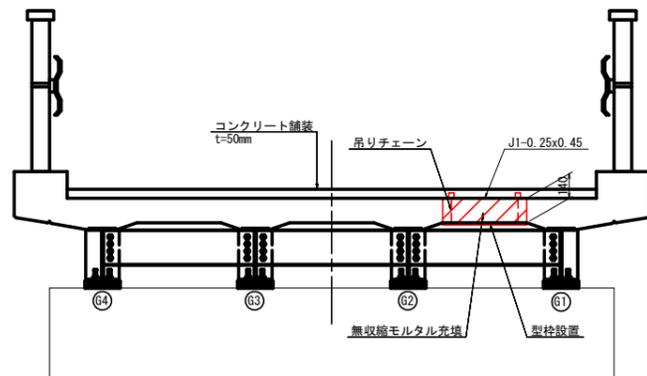
桁下平面図 (床版)
断面修復工



(上流側)

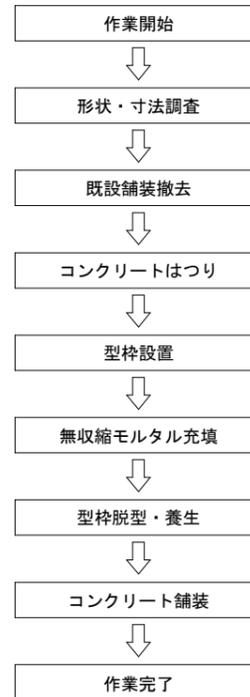
断面修復工 (充填工法)
(参考図)

(下流側)



※ A1支点付近の断面修復対象部については、コンクリート舗装の打換え前に
路面側から対象箇所の床版をはつり、型枠を吊った上で作業を行うこと。
※ はつり作業を行う際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう留意すること。

施工手順



凡例

補修工法	
D	断面修復工 (左工法)
J	断面修復工 (充填工法)
D0-0.00x0.00	補修工法 補修番号-補修幅x補修幅
J0-0.00x0.00	補修工法 補修番号-補修幅x補修幅

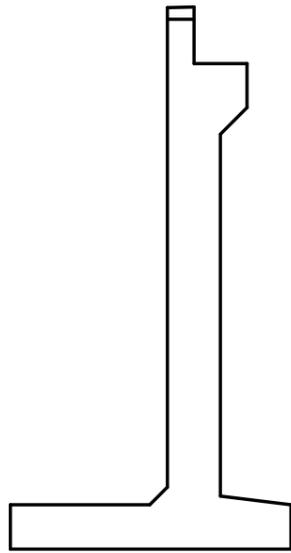
※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
※ 土砂堆積、補生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

笏賀第3号橋

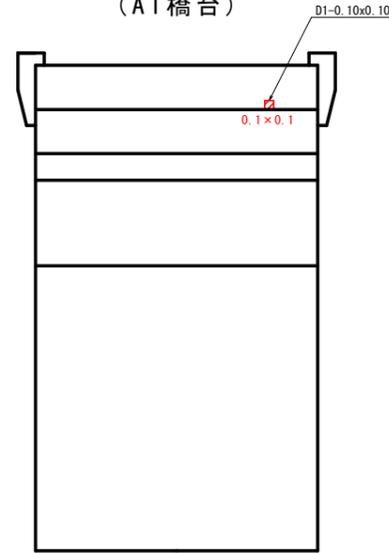
路線名	本笏賀線		
笏賀第3号橋橋梁補修工事			
図名	笏賀第3号橋 補修図 (その1)		
位置	東伯郡 三朝町 笏賀 地内		
縮尺	図示	単位	m
図号	全 8	葉中の内	2
令和 7 年度施行 三朝町			
三朝町 建設水道課			

A1、A2橋台
断面修復工

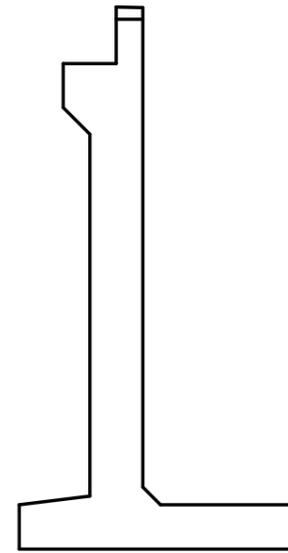
側面図 (上流側)



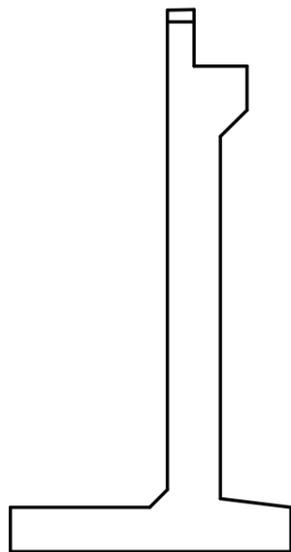
正面図
(A1橋台)



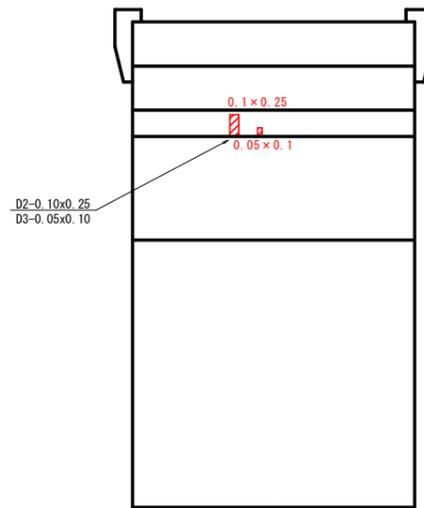
側面図 (下流側)



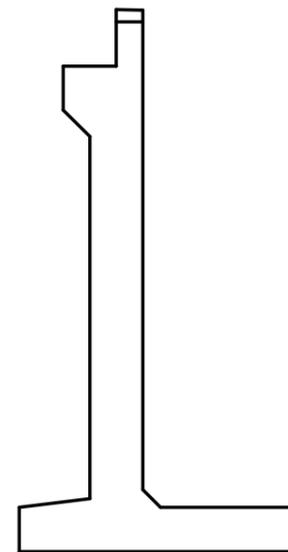
側面図 (下流側)



正面図
(A2橋台)



側面図 (上流側)



凡例

補修工法	
D	断面修復工 (左官工法)
D0-0.00x0.00	補修工法 補修番号 補修幅x補修幅

- ※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
- ※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
- ※ 土砂堆積、補生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

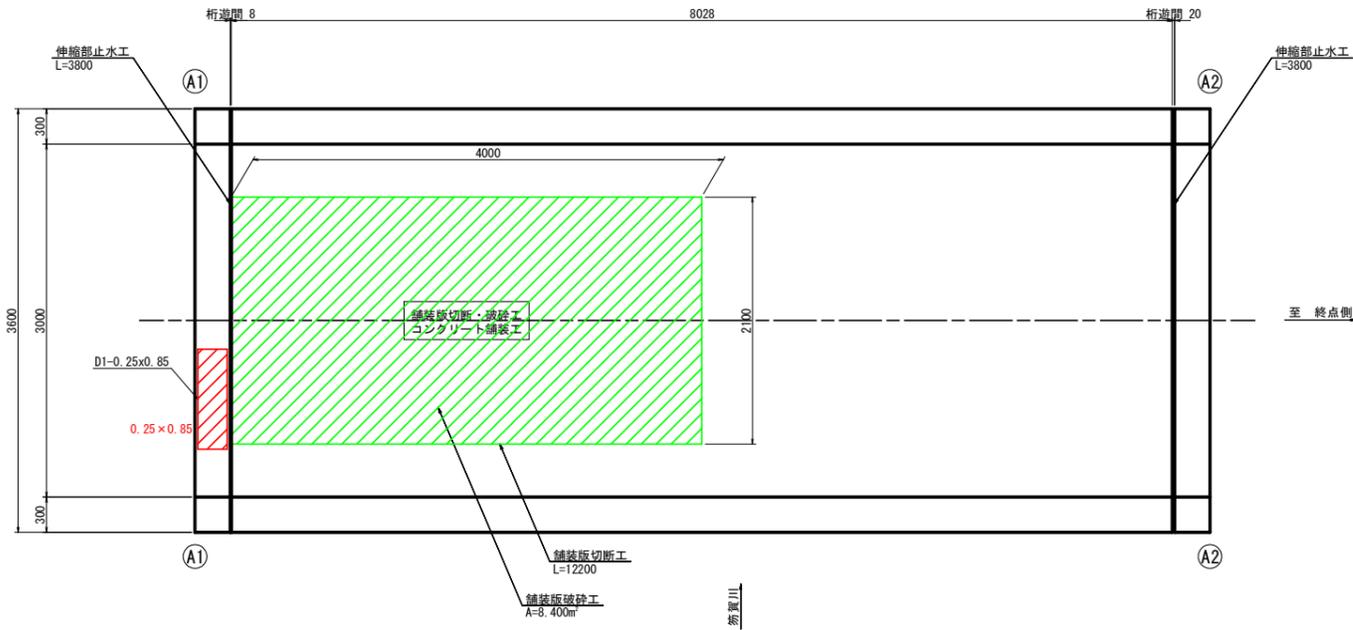
笏賀第3号橋

路線名	本笏賀線		
笏賀第3号橋橋梁補修工事			
図名	笏賀第3号橋 補修図 (その2)		
位置	東伯郡 三朝町 笏賀 地内		
縮尺	図示	単位	m
図号	全 8	葉中の内	3
令和 7 年度施行 三朝町			
三朝町 建設水道課			

笏賀第3号橋 補修図 (その3) S=1:30

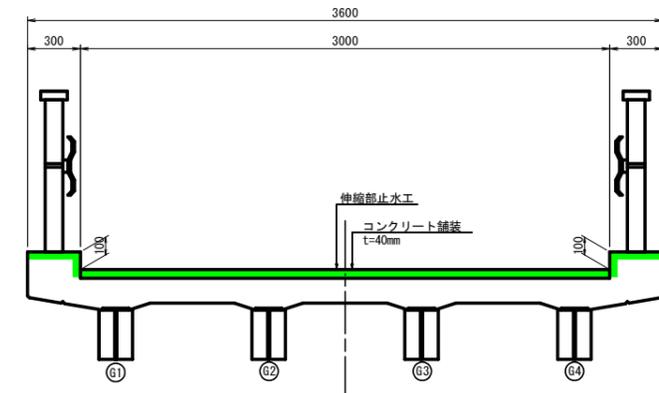
橋面 (地覆・舗装)
断面修復工、舗装版切断・破碎工、コンクリート舗装工、伸縮部止水工

平面図



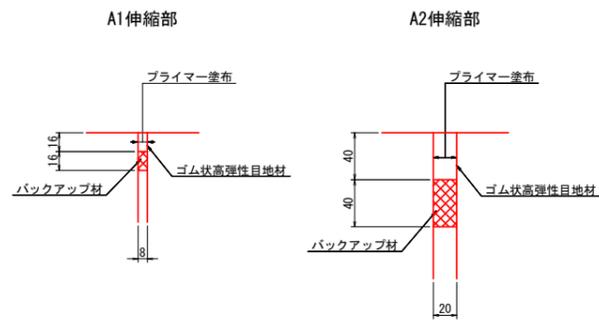
断面図 S=1:20

(下流側) (上流側)



※舗装厚は、はつり調査結果による。

伸縮部詳細図 S=1:3



舗装版切断・破碎工数量表

名称	規格	単位	数量	備考
舗装版切断工	t=4cm (想定)	m	12.200	コンクリート舗装(車道部)
舗装版破碎工	t=4cm (想定)	m ²	8.400	コンクリート舗装(車道部)
般運搬	舗装版破砕	m ²	0.336	
般処分	がれき類	m ²	0.336	

コンクリート舗装工数量表

名称	規格	単位	数量	備考
コンクリート舗装	σck=18N/mm ² t=4cm	m ²	0.420	

伸縮部止水工数量表

名称	規格	単位	数量	備考
下地処理		m	7.600	
目地材充填	ゴム状高弾性目地材 8×16mm	m	3.800	
	ゴム状高弾性目地材 20×40mm	m	3.800	
バックアップ材	ウレタンフォーム 8×16mm	L	0.486	
	ウレタンフォーム 20×40mm	L	3.040	

凡例

補修工法	
	コンクリート舗装工範囲
	断面修復工(左官工法)
D0-0.00x0.00	補修工法 補修番号 補修幅x補修幅

※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
 ※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
 ※ 土砂堆積、補生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
 ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

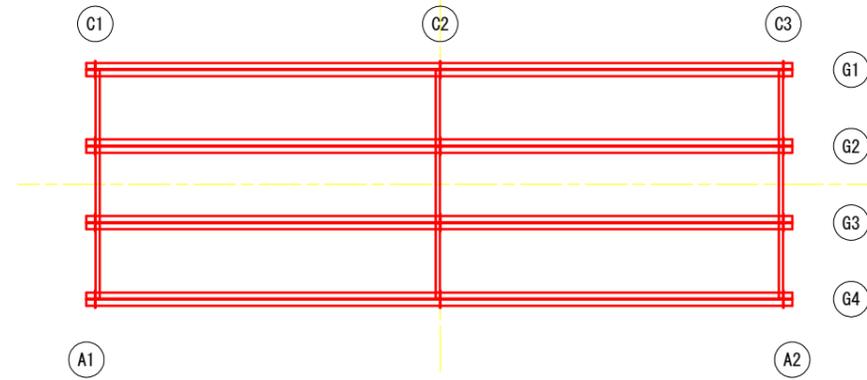
笏賀第3号橋

路線名	本笏賀線		
笏賀第3号橋橋梁補修工事			
図名	笏賀第3号橋 補修図 (その3)		
位置	東伯郡 三朝町 笏賀 地内		
縮尺	図示	単位	mm、m
図号	全 8	葉中の内	4
令和 7 年度施行 三朝町			
三朝町 建設水道課			

笏賀第3号橋 補修図 (その5)

塗膜除去工、橋梁塗装工

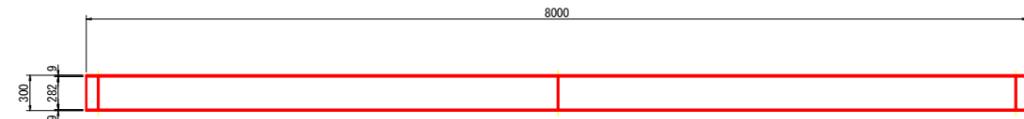
平面図 S=1:40



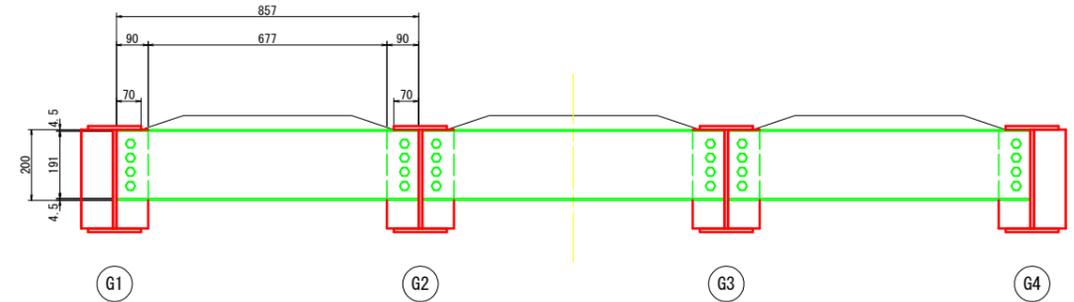
上・下フランジ S=1:30



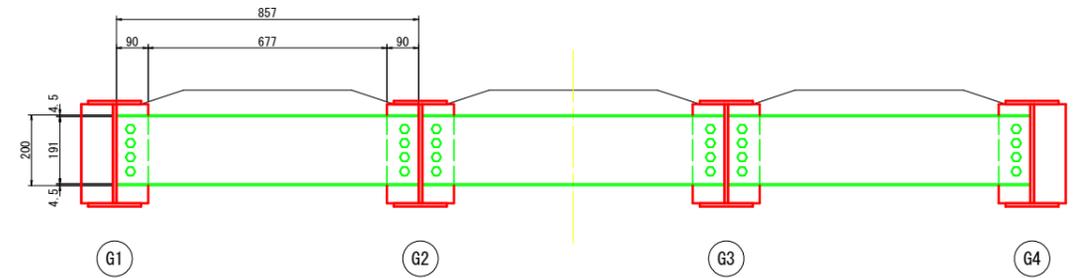
主桁側面図 S=1:30



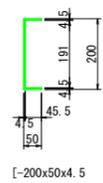
端横桁 S=1:10



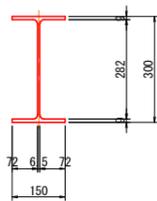
中間横桁 S=1:10



横桁詳細図 S=1:10

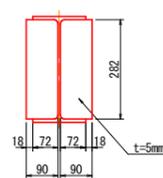


主桁詳細図 S=1:10



H300x150x6.5x9
単位重量:36.7kg/m
塗装面積:0.0317m²/kg

補剛桁詳細図 S=1:10

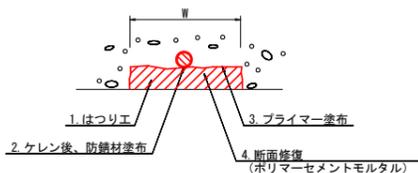


笏賀第3号橋

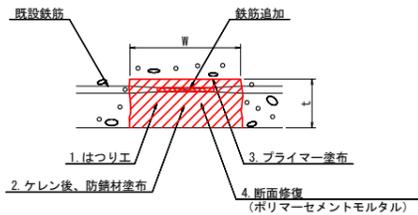
路線名	本笏賀線		
笏賀第3号橋補修工事			
図名	笏賀第3号橋 補修図 (その5)		
位置	東伯郡 三朝町 笏賀 地内		
縮尺	図示	単位	mm
図号	全 8	葉中の内	6
令和 7 年度施行 三朝町			
三朝町 建設水道課			

笏賀第3号橋 補修詳細図(参考図)

断面修復工(左官工法) (参考図)

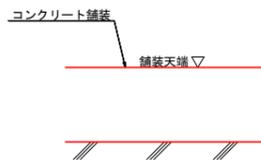


断面修復工(鉄筋追加)(左官工法) (参考図)



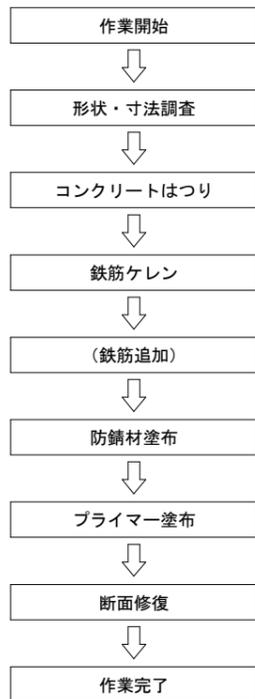
- ※ 鉄筋周辺のうきおよび劣化したコンクリートは除去すること。
- ※ 端部は、L字カットを行い、フェザーエッジとならない処理を行うこと。
- ※ 腐食鉄筋のケレンに伴い鉄筋断面が著しく減少した箇所(25%以下)は、新たに同径の鉄筋を追加設置すること。
- ※ 鉄筋を追加する場合は、必要な鉄筋継ぎ手長を確保すること。
- ※ 断面修復工は、原形復旧を基本とするが、純かぶり10mm未満の箇所については、10mm以上のかぶり厚を確保させること。
- ※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

コンクリート舗装工 (参考図)

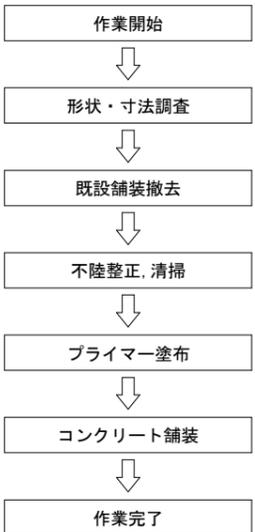


- ※ 土砂堆積、雑生等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 舗装版取壊しを行う際は、構造物を破損しないよう注意すること。
- ※ 既設舗装撤去後に不陸が見られる場合は、モルタル等で不陸整正を行うこと。

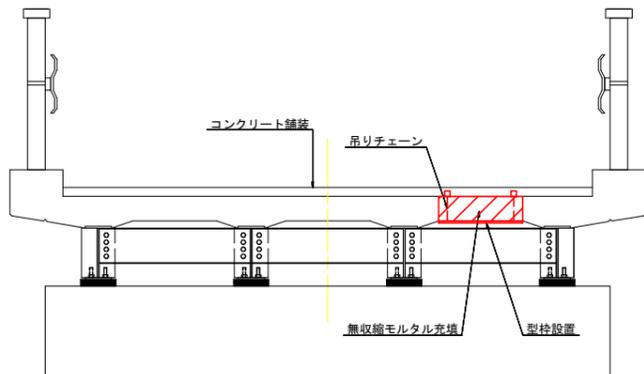
施工手順



施工手順

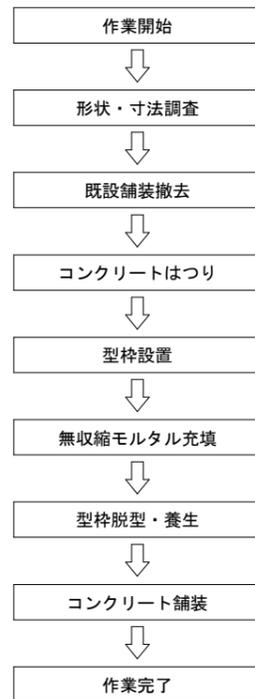


断面修復工(充填工法) (参考図)

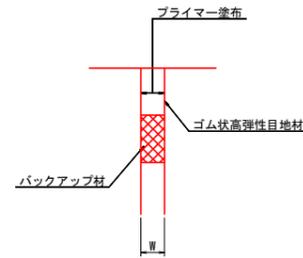


- ※ A1支点付近の断面修復対象部については、コンクリート舗装の打換え前に路面側から対象箇所を床版をはつり、型枠を吊った上で作業を行うこと。
- ※ はつり作業を行う際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう留意すること。

施工手順

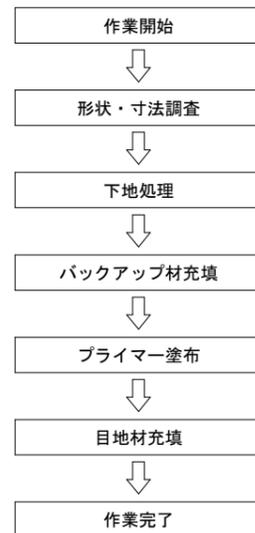


伸縮部止水工 (参考図)

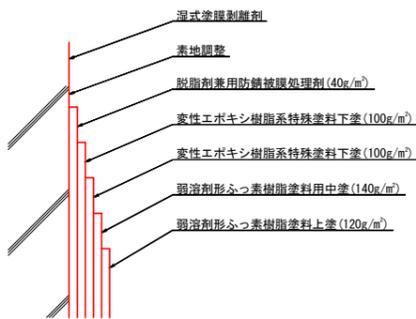


- ※ 施工箇所の清掃を十分に行うこと。
- ※ 充填材は可使用時間内に注入を行い、可使用時間を過ぎた材料については使用しないこと。

施工手順



塗替え塗装工 (参考図)

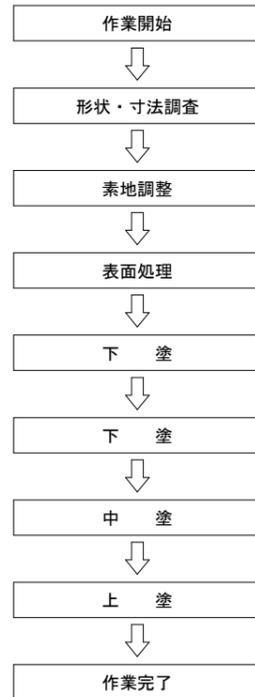


塗装仕様：錆転換型防食塗装

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)
素地調整	2種	
表面処理	脱脂剤兼用防錆被膜処理剤	40
下塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗	100
下塗	変性エポキシ樹脂系特殊塗料下塗	100
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120

- ※ 素地調整の種類は2種ケレンを想定。
- ※ 十分な接着効果を得るために、施工対象となる鋼材面の不純物(油、ゴミ等)を十分に除去すること。
- ※ 塗装面のケレンは十分に行うこと。
- ※ 気温5℃以下、湿度85RH%以上では施工しないこと。
- ※ 塗布量は標準使用量以上とすること。
- ※ 施工後の材料が乾燥するまで、塗布面が濡れないこと。
- ※ 降雨、降雪のとき、またはその恐れが或る時は使用しないこと。
- ※ 材料は可使用時間内に塗布を行い、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

施工手順

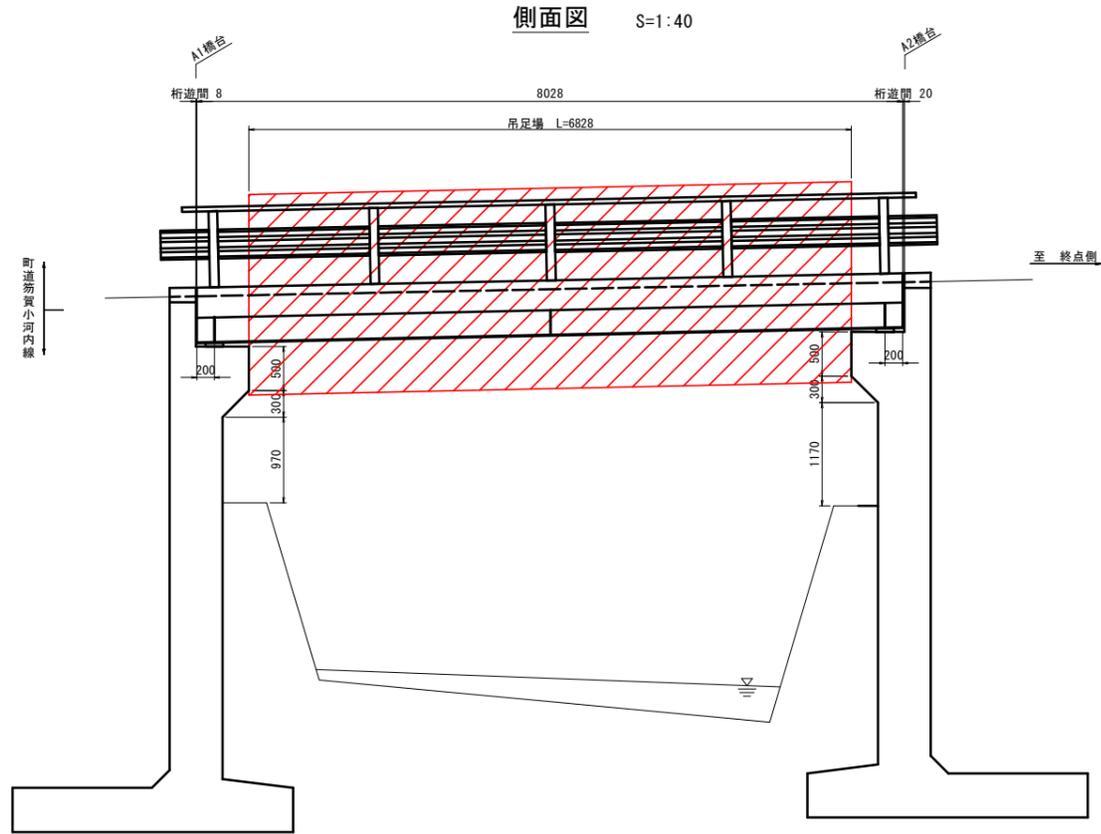


笏賀第3号橋

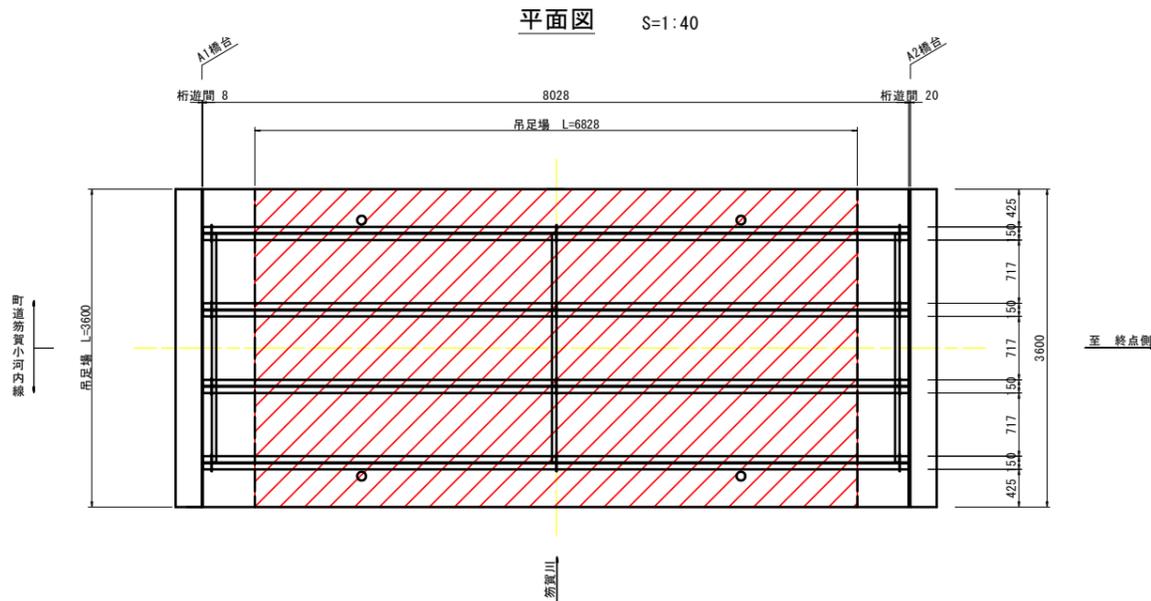
路線名	本笏賀線		
笏賀第3号橋橋梁補修工事			
図名	笏賀第3号橋 補修詳細図(参考図)		
位置	東伯郡 三朝町 笏賀 地内		
縮尺	図示	単位	mm
図号	全 8	葉中の内	7
令和 7 年度施行 三朝町			
三朝町 建設水道課			

笏賀第3号橋 仮設足場図(参考図)

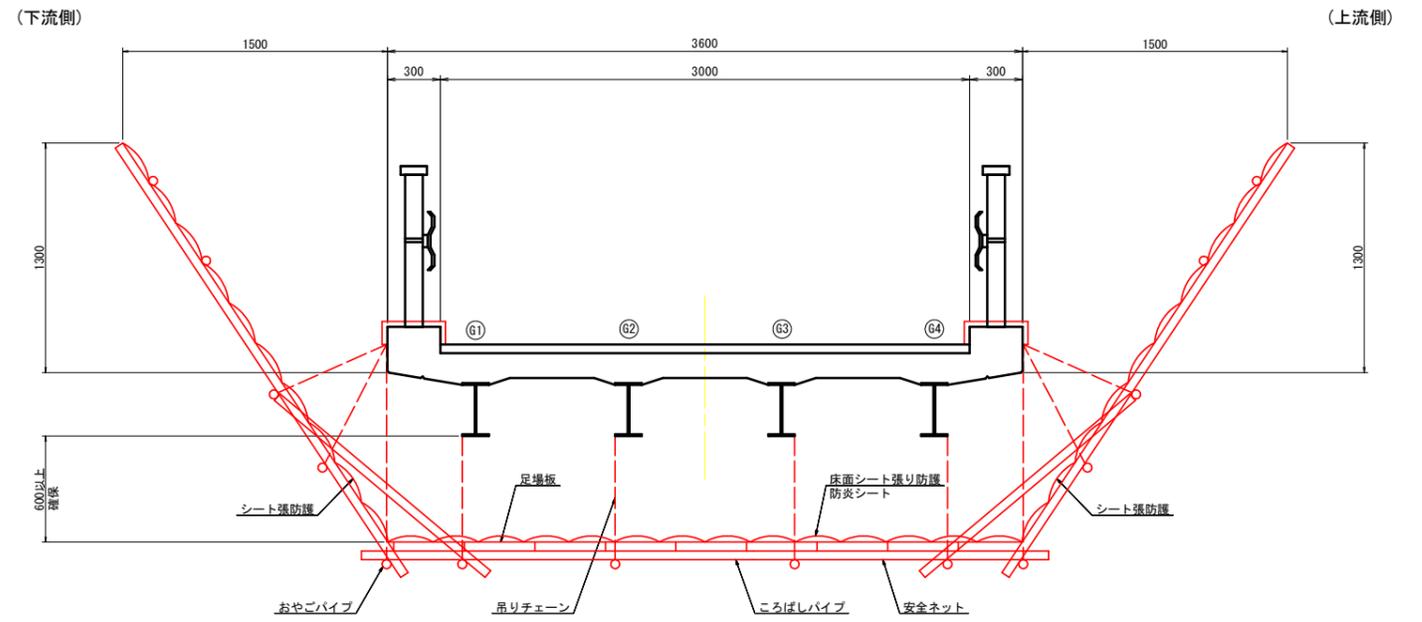
側面図 S=1:40



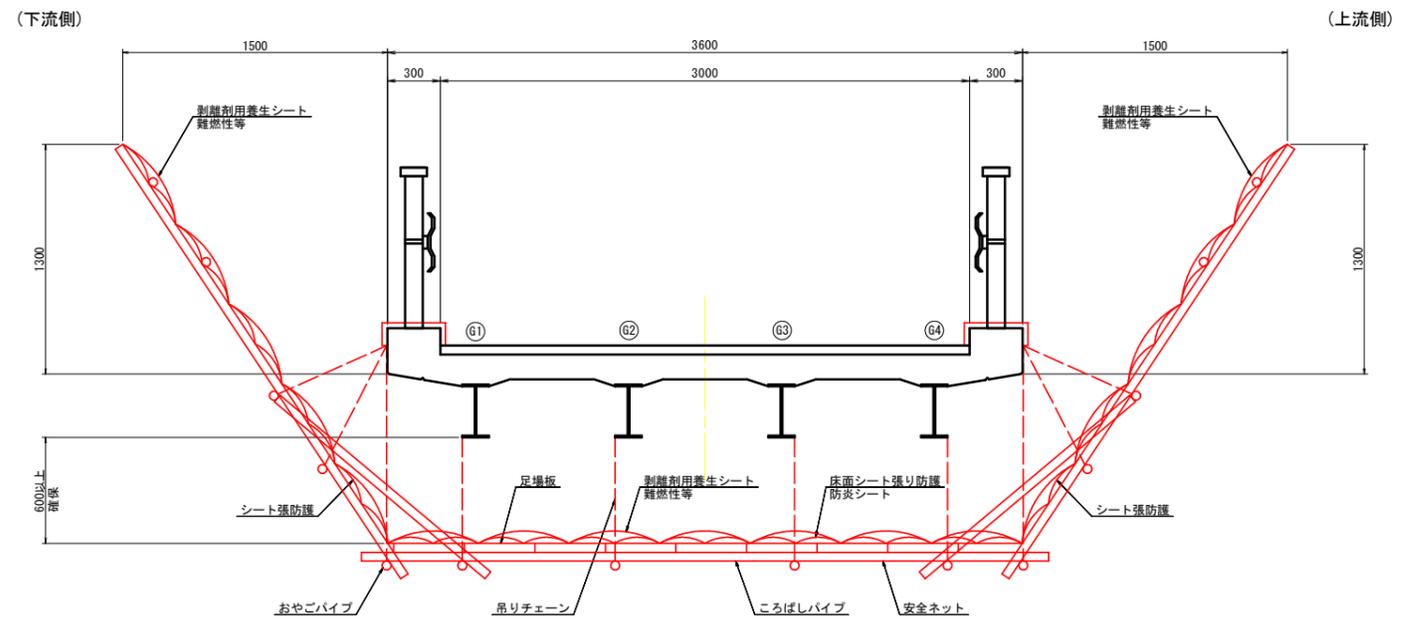
平面図 S=1:40



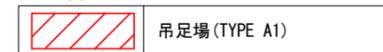
上部工断面図 S=1:20



湿式塗膜剥離工 施工時 S=1:20



凡例



笏賀第3号橋

路線名	本笏賀線		
笏賀第3号橋橋梁補修工事			
図名	笏賀第3号橋 仮設足場図(参考図)		
位置	東伯郡 三朝町 笏賀 地内		
縮尺	図示	単位	mm
図号	全 8	葉中の内	8
令和 7年度施行 三朝町			
三朝町 建設水道課			

注) 本図面は、橋梁架換工事竣工図を用いて現地調査を行い作成したものである。施工前には必ず現況寸法実測を行い、計画内容と照合すること。